

## はじめに

愛知県陶磁美術館は、陶磁に関する美術的、歴史的、産業的に貴重な資料を収集・保存、展示及び調査・研究を進めることにより、陶磁文化の普及・向上と陶磁器産業の振興に資することを目的に設置されました。

昭和53年6月の開館以来、国内屈指の陶磁専門ミュージアムとして、日本やアジアを始めとする世界各地の様々なやきものの魅力を展覧会や教育普及事業を通じて紹介してまいりました。コレクションは、令和2年度に17件を収集し、3件の重要文化財を含めた総数は、8,100件に及んでおります。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月から5月にかけて臨時休館を余儀なくされました。その後、展示館の再開後には感染症対策をとりつつ、特別展「The 備前 土と炎から生まれる造形美」をはじめ計4本の特別展及び企画展を開催しました。また、夏季以降は陶芸館における各種の陶芸教室、ワークショップなど多様な教育・普及活動を展開し、陶磁文化の魅力に接する機会を多く提供しております。

ここに、令和2年度の事業結果をとりまとめましたので、参考にしていただき、今後とも、当館の運営に御支援と御協力を賜りますようお願いいたします。

令和3年7月

愛知県陶磁美術館

# 目 次

I	事業及び施設の概要	1
II	令和2年度事業	
1	展示	3
(1)	特別展・企画展・テーマ展	4
(2)	常設展	11
(3)	その他の展示	12
(4)	企画展示事業の自己評価	13
2	資料	
(1)	資料収集	15
(2)	資料の活用	18
3	調査・研究	
(1)	調査事業等	21
(2)	研究論文・研究発表	21
(3)	研究紀要	23
4	教育・普及	
(1)	教育講座（館内）	24
(2)	教育講座（館外）	26
(3)	子ども向け事業	27
(4)	学校教育との連携事業	27
(5)	ボランティア活動	29
(6)	他団体との連携活動	30
(7)	ギャラリーの貸出し	33
5	陶芸館	
(1)	通年事業	34
(2)	定例事業	35
(3)	展示連携事業	39
(4)	その他連携事業	41
6	広報・宣伝活動のあらまし	42
7	事業活性化の取組	47
8	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の経緯	48
III	参考資料	
1	沿革	53
2	組織及び事務分掌	55
3	収支予算	56
4	愛知県陶磁美術館運営会議	57
5	資料収集活動	58
6	利用者の状況	61
7	展覧会別観覧者状況一覧	64
8	展覧会別収支決算状況	66
9	陶芸館利用	67
10	施設の規模と配置	68

# I 事業及び施設の概要

## 1 事業の概要

愛知県陶磁美術館は、美術的、歴史的、産業的に貴重な陶磁資料の保存を図り、陶磁文化の普及・向上と陶磁器産業の振興に寄与するため、陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存、展示及び調査研究並びに県民のやきものづくり体験の事業を行っている。

### 愛知県陶磁美術館条例（抜粋）

（設置）

第一条 陶磁文化の振興及び陶磁器に関する文化財の保存並びに住民の陶芸に対する教養の向上を図り、併せて陶磁器産業の発展に寄与するため、愛知県陶磁美術館（以下「美術館」という。）を瀬戸市に設置する。

### 愛知県陶磁美術館基本理念

「土」という自然素材を焼くことにより生み出されたやきものは、原始時代から現代まで、世界中の人々の生活に不可欠なものとして、暮らしと産業を支えてきました。同時にやきものの特徴である文様や造形、土や釉薬の輝きや色などは、我々の美的感性や創造性を刺激し、現在も多くの芸術作品が生み出されています。

当館は、こうしたかけがえのない歴史的な文化財や芸術作品など、様々な魅力を湛えたやきものを中心とした美術館として、多くの人々に鑑賞、制作、学習等の機会を提供することにより、人々の知性と感性を高め、創造的で多様性のある心豊かな地域社会の実現を目指します。

### （1）展示

陶磁文化の普及・向上のため、各種の展示活動を実施している。

本館では美術的、歴史的陶磁資料を中心に、古代から現代までの日本及び世界の陶磁の常設展示を開催している。さらに特別展や企画展では、さまざまなテーマによって、時間的、空間的、分野的に幅広い種類の陶磁作品を紹介している。

南館では愛知のやきものをテーマに、現在の瀬戸・常滑・名古屋周辺・高浜周辺をとりあげ、愛知の陶磁史も併せて紹介している。

西館では、郷土の民俗文化財である陶磁のこま犬を常設展示している。

古窯館では、実際に発掘された古窯を保存・展示している。

### （2）資料

日本陶磁史の全体像を系統的に理解できるよう、全国の主要な窯業地の陶磁器、海外の代表的な窯業地の陶磁器、国内外の現代陶芸作品、陶磁器産業資料及び窯業関連資料の収集を図ることを基本方針としている。

### （3）調査・研究

学会への参加・研究発表を行い、国内外の美術館、博物館、研究機関と交流している。

#### (4) 教育・普及

陶磁文化の普及・向上を目指し、展覧会の理解をより深めるための講演会、シンポジウム、ギャラリートーク、ワークショップなどを開催している。また、小中学校、高校、特別支援学校や大学など学校教育との連携事業や、地域の施設、団体との連携事業に取り組んでいる。

さらに館の活動を紹介するため、広報宣伝用印刷物の作成と配布、公式WEBページやSNSでの情報提供など広報活動を行っている。

#### (5) 陶芸館

教育・普及事業の一環として、陶芸実習の希望者に対し通年で陶芸指導を行うとともに、例年の陶芸教室や古窯焼成実験、展示と連携したワークショップなどを開催している。

## 2 施設の概要

(1) 所在地 愛知県瀬戸市南山口町 234 番地

(2) 規模

ア 敷地	280,480.47 m <sup>2</sup>				
イ 建築面積	10,228.88 m <sup>2</sup>				
本館：	6,387.00 m <sup>2</sup>	南館：	1,475.42 m <sup>2</sup>	西館：	275.50 m <sup>2</sup>
陶芸館：	1,442.25 m <sup>2</sup>	古窯館：	360.79 m <sup>2</sup>	茶室：	160.36 m <sup>2</sup>
その他：	127.56 m <sup>2</sup>				
ウ 延床面積	20,968.60 m <sup>2</sup>				
本館：	14,792.45 m <sup>2</sup>	南館：	1,519.39 m <sup>2</sup>	西館：	232.75 m <sup>2</sup>
陶芸館：	3,541.41 m <sup>2</sup>	古窯館：	344.00 m <sup>2</sup>	茶室：	148.23 m <sup>2</sup>
その他：	390.37 m <sup>2</sup>				

エ 主な建物の規模及び構造

本館：地上3階地下1階建	鉄骨鉄筋コンクリート造り
南館：平屋一部2階建	鉄骨鉄筋コンクリート造り
西館：平屋建	鉄筋コンクリート造り
陶芸館：地上1階地下2階建	鉄筋コンクリート造り
古窯館：平屋建	鉄骨造り
茶室：平屋建	鉄筋コンクリート造り

(3) 開館時期

本館：昭和54年10月13日	(工期 昭和52年12月23日～昭和54年3月20日)
平成6年7月6日〔増築開館〕	(工期 平成3年10月16日～平成5年11月30日)
南館：昭和53年6月1日	(工期 昭和51年12月25日～昭和53年3月20日)
西館：昭和57年12月4日	(工期 昭和57年6月30日～昭和57年12月4日)
陶芸館：昭和61年4月12日	(工期 昭和60年10月3日～昭和61年3月20日)
平成6年4月1日〔増築開館〕	(工期 平成3年10月16日～平成5年11月30日)
古窯館：平成6年4月1日	(工期 平成4年9月29日～平成5年3月18日)
茶室：昭和56年11月26日	(工期 昭和56年5月1日～昭和56年11月26日)

## Ⅱ 令和2年度事業

### 1 展示

古代から現代までの日本及び世界の陶磁、あるいは国内外の優れた陶芸家の作品などを、様々なテーマによって幅広く紹介した。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月11日(土)から5月17日(日)まで全館臨時休館し、企画展の中止や会期変更等を行った。

<令和2年度展示一覧>

展覧会種別	展 覧 会 名		掲載頁	
企画展	特別展	「The 備前 —土と炎から生まれる造形美—」 会期：8月8日(土)～9月27日(日)	4頁	
		「YAYOI・モダンデザイン —ニッポンの美、ここに始まる—」 会期：10月10日(土)～12月13日(日)	5-6頁	
	企画展	「異才 辻晋堂の陶彫 —「陶芸であらざる」の造形から—」 当初会期：4月11日(土)～5月31日(日) 変更会期：5月19日(火)～6月21日(日)	7頁	
		「日本陶磁の源・陶邑窯 —猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁—」 当初会期：6月13日(土)～7月26日(日) 変更会期：令和3年1月9日(土)～3月21日(日)	8-9頁	
		「海洋文明—中国海南省博物館所蔵品展—」 当初会期：令和3年1月9日(土)～3月21日(日) →新型コロナウイルス感染症拡大のため中止	9頁	
	本館 テーマ展	「癒しのノベルティ楽園(パラダイス)」 会期：7月4日(土)～8月2日(日) (新型コロナウイルス感染症拡大のため、企画展会期等変更に伴い 臨時開催)	9頁 -10頁	
	南館 テーマ展	「洋食器—輸出されたやきものの華(1)—」 当初会期：4月1日(水)～7月26日(日) 変更会期：5月19日(火)～7月26日(日)	10頁	
		「ノベルティ—輸出されたやきものの華(2)—」 会期：7月28日(土)～11月29日(日)		
		「やきものとデザイン 陶磁器デザイナーのパイオニア 森正洋」 会期：12月1日(火)～令和3年3月28日(日)		
常設展	本館	「日本と世界のやきもの」	11頁	
		「現代陶芸 —やきものと身体—」		
		「瀬戸・常滑作家コーナー」		
	南館	「もっと伝えたい、 愛知のやきもの」	「愛知のやきもの「今」」 「愛知のやきもの1万年」	11頁 -12頁
		西館	「陶磁のこま犬百面相」	12頁
その他	サテライト展示「喫茶を彩る—ティーセットの世界—」		12頁	
	愛知用水関連資料特別展示			
	愛知県美術館・愛知県陶磁美術館 令和2年度移動美術館 当初会期：令和3年1月23日(土)～3月7日(日) →新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			

・会期の記載のないものは、令和2年4月1日(水)～3年3月31日(水)の開催である。

## (1) 特別展・企画展・テーマ展

### ① 特別展「The 備前 ー土と炎から生まれる造形美ー」

桃山時代に茶人たちに見出され用いられた古備前の名品、その古備前に魅せられ制作に取り組んできた近代の陶芸家たちの作品、そして重要無形文化財保持者（人間国宝）や若手陶芸家の作品まで幅広く紹介した。

会 期	8月8日(土)～9月27日(日)
開催日数	44日間
会 場	本館1階 第1・第2・第8展示室
主 催	愛知県陶磁美術館
共 催	NHK名古屋放送局、NHKエンタープライズ中部
後 援	愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社
出品件数	148件
観覧者数	4,634人
普及出版	図録 (A4変形判 181頁) ポスター (B2、B3) チラシ (A4 (2種))

#### 教育・普及事業

- ◇記念講演会「備前焼の魅力と作風の展開ー桃山時代から現代までー」  
8月8日(土) 午後1時30分～3時 講堂  
講師：唐澤昌宏氏（国立工芸館長/本展監修者）
- ◇隠崎隆一氏（本展出品作家）による作品ビデオトーク  
\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のためギャラリートークから変更  
8月15日(土)午後1時30分から1時間程度 講堂
- ◇ワークショップ「炎で描く抜き絵の世界～牡丹餅の技法から～」  
9月20日(日) 午後1時30分～3時30分 展示説明室、陶芸館  
※詳細は39頁を参照
- ◇連続講座  
8月29日(土)「源流としての備前焼」  
講師：伊藤嘉章（総長）  
9月5日(土)「近代の陶芸家と備前焼」  
講師：佐藤一信（副館長）  
9月19日(土)「現代の備前焼」  
講師：入澤聖明（学芸員）  
いずれも午後1時30分から1時間程度 本館1階展示説明室
- ◇音声ガイド  
\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、行わなかった。
- ◇お迎え花：坂野眸氏（池坊）

#### 主要関連記事

- ◇新聞  
井上隆生「備前焼 今昔が分かる148点」（朝日新聞 9月3日朝刊）  
谷口大河「The 備前-土と炎から生まれる造形美-」（中日新聞 9月4日朝刊）  
井上隆生「備前焼 今昔が分かる148点」（朝日新聞 9月3日朝刊）
- ◇テレビ  
佐藤一信「備前展紹介」（NHK名古屋放送局「まるっと」 8月27日）  
入澤聖明「備前展紹介」（NHKエンタープライズ中部「さらさらサラダ」 9月3日）
- ◇ウェブサイト  
「特別展 The 備前-土と炎から生まれる造形美-」（インターネットミュージアム 7月16日から掲載）



A4 チラシ



図録表紙

## ② 特別展「YAYOI・モダンデザインーニッポンの美、ここに始まるー」

同時開催「あいち考古楽市 2020ー新発見の縄文/弥生資料ー」

あいち朝日遺跡ミュージアムの開館に関連して、愛知県埋蔵文化財センターが企画・構成、当館が開催・実施を担当し、主に西日本の遺跡から近年出土した弥生時代の土器や木製品を形、色、紋様、素材に焦点をあてて展示紹介した。併せて、愛知県内の遺跡で近年出土した縄文土器と弥生土器を紹介した。

会期	10月10日(土)～12月13日(日)
開催日数	56日間
会場	本館1階 第1・第2展示室
主催	愛知県陶磁美術館 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
共催	中日新聞社
後援	愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社
助成	芸術文化振興基金助成事業 (独立行政法人日本芸術文化振興会)
出品件数	YAYOI・モダンデザイン：160点 あいち考古楽市 2020：60点
観覧者数	4,905人
普及出版	図録 (A4 変形判 96頁) ポスター (B2、B3) チラシ (A4 (2種))



A4 チラシ

教育・普及事業

### ◇記念対談「弥生の美を語る」

10月18日(日)午後1時30分～3時 講堂

講師：松木武彦氏 (国立歴史民俗博物館教授)

橋本麻里氏 (永青文庫副館長)

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため定員を半減して開催した。

### ◇考古学セミナー「あいちの考古学 2020」及び YAYOI バザール

・12月5日(土) 午後1時～4時 講堂及び講堂前ホール

プレゼンテーション「愛知県内の弥生遺跡発掘調査の成果」

「豊橋市西側遺跡」岩原剛氏 (豊橋市教育委員会)

「東浦町天白遺跡」楠美代子氏 (東浦町教育委員会)

「東海市畑間遺跡」早川由香里氏 (東海市教育委員会)

「西尾市清水遺跡」浅岡優氏 (西尾市教育委員会)

「設楽ダム関連遺跡」永井宏幸 (愛知県埋蔵文化財センター)

ポスターセッション

「アカニシ De 貝染め」吉永亜紀子氏 (総合研究大学院大学)

「伊勢国府跡」吉田真由美氏 (鈴鹿市考古博物館)

「2020年度豊田市伊保古瓦出土地(伊保白鳳寺)の発掘調査」

清水麻里奈氏・相場伸彦氏・須賀永帰氏・方美権氏

(名古屋大学大学院人文学研究科)

「太佐山高射砲陣地跡」宮澤浩司氏 (東海市教育委員会)

「設楽ダム事業に伴う発掘調査 2020」愛知県埋蔵文化財センター

YAYOI バザール

アダマロ (紙工芸)、double-mound (木工)、西野雅啓 (陶芸)、

マキ (布小物)、がまぐち屋 La Mahina (布小物)、

Okazari (真鍮アクセサリー) あゆち堂 (手ぬぐい・紙小物)、

Medete (マクラメ編みアクセサリー)、hopicco (さをり織り)、

日光プロセス (雑貨)、CHUPRO (雑貨)、PURUPURU (雑貨)、

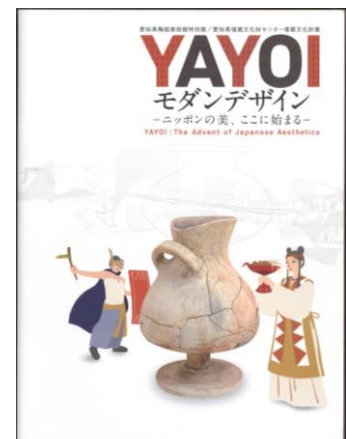
くう (Tシャツ)、革小物ふみ (革小物)、Chiki\*moca (布小物)、

Small-spring (オープン陶土作家)、MUU LIFE (布小物)、

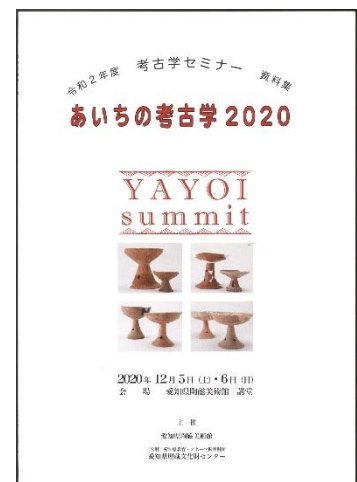
ヤミラ (雑貨)、apple garden (衣服)、藍寧舎・ARCHAEOSCALE (雑貨)

三河考古学談話会 (研究論文集)、東海石器研究会 (研究論文集)、

東海窯業史研究会 (研究論文集)、考古学フォーラム (研究論文集)



図録表紙



セミナー資料集表紙(あいちの考古学 2020 展示図録を含む)

- ・12月6日(日) 午前10時30分～午後4時 講堂及び講堂前ホール  
記念講演「弥生時代とは、何だったのか？」  
講師：深澤芳樹氏(元・奈良文化財研究所副所長)  
シンポジウム「弥生サミット」  
「鳥取県青谷上寺地遺跡」北浦弘人氏(鳥取県青谷上寺地遺跡整備室)  
「岡山県南方遺跡」扇崎由氏(岡山市教育委員会)  
「石川県八日市地方遺跡」下濱貴子(小松市埋蔵文化財センター)  
「愛知県朝日遺跡」原田幹(あいち朝日遺跡ミュージアム)  
ポスターセッション(12月5日と同じ)  
YAYOI バザール(12月5日と同じ)  
\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員を半減して開催した。

◇連続講座「YAYOI デザインを語る」

- 11月14日(土)「弥生のかたち」
- 11月28日(土)「弥生の紋様」
- 両日ともに午後1時30分～3時 講堂  
講師：樋上昇(愛知県埋蔵文化財センター主任専門員)  
\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員を半減して開催した。  
また、講座と併せて企画していたギャラリートークを行わなかった。

◇ワークショップ「弥生土器を作ろう」

- 10月25日(日)午後1時30分～3時30分
- 11月29日(日)午前10時～12時
- 11月29日(日)午後1時30分～3時30分
- 各回ともに同内容  
講師：当館陶芸指導員及び学芸員  
\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当館敷地内における採土や顔料制作は行わなかった。  
参加者作品を本館1階ロビーに展示(11月10日(火)～12月13日(日))  
※詳細は40頁を参照

◇ワークショップ「ファッション体験・なりきり弥生人」

- ◇音声ガイド  
\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、行わなかった。

◇弥生連携企画「この秋、あいちの弥生がアツイ」

- ・あいち朝日遺跡ミュージアム 開館記念展「朝日遺跡のデザイン」  
11月22日(日)～令和3年3月21日(日)
- ・一宮市博物館 特別展「発掘された日本列島2020」  
11月28日(土)～12月27日(日)
- ・相互割引制度  
愛知県陶磁美術館「YAYOI・モダンデザイン」、あいち朝日遺跡ミュージアム「朝日遺跡のデザイン」、一宮市博物館「発掘された日本列島2020」について、該当館以外の二館該当展示の利用済観覧券を持参した方について、該当館の観覧料を100円減額することとした。  
\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教育普及事業等の連携事業は行わなかった。

◇お迎え花：尾藤秀華氏(清秀流)

主要関連記事

- ◇テレビ  
杉浦友紀、樋上昇ほか「英雄たちの選択」(NHK-BSプレミアム 2021年1月2日放映)
- ◇動画 web サイト  
橋本麻里、樋上昇、小川裕紀、「YAYOI・モダンデザイン(愛知県陶磁美術館)を巡ろう」  
(ニコニコ美術館 (<https://ch.nicovideo.jp/niconicomuseum>) 11月8日午後7時～10時生中継)
- ◇新聞  
「弥生時代の出土品 美術面でも注目を」(中日新聞 10月25日)  
樋上 昇「凝った作り 最高の木製品 漆塗りスタンプ紋脚付壺・蓋」(中日新聞 10月28日)  
小川裕紀「シンプルな形の美 水差し形土器」(中日新聞 10月29日)  
樋上 昇「現代に弥生時代を見直す」(中日新聞夕刊 10月30日)  
「弥生土器って・・・地味?モダン?」(朝日新聞 12月5日)
- ◇雑誌  
樋上 昇「YAYOI・モダンデザイン」(『陶説』810号、2020年10月)  
橋本麻里「土器だけではない弥生時代の造形美」(『週刊文春』11月26日号)

### ③ 企画展「異才 辻晉堂の陶彫 —「陶芸であらざる」の造形から—

陶彫による抽象作品で国際的に活躍した彫刻家・辻晉堂（1910-81）の生誕 110 年を記念し、辻が陶彫を制作した京都時代に焦点を当ててその表現の世界を紹介した。

本展は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館に伴い、会期を変更して開催した。

会 期	[予定] 4月 11 日(土)～5月 31 日(日) [変更] 5月 19 日(火)～6月 21 日(日)
開催日数	44 日間→30 日間
会 場	本館 1 階 第 1・第 2 展示室
主 催	愛知県陶磁美術館
共 催	朝日新聞社
監 修	三谷 巍 (フリーキュレーター・元鳥取県立博物館学芸員)
企 画	イムラアートギャラリー
後 援	愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社 公益財団法人日本グラフィックデザイナー協会
出品件数	75 件
観覧者数	2,028 人
普及出版	図録 (A4 変形判 135 頁) ポスター (B2、B3) チラシ (A4 (2 種))



A4 チラシ

教育・普及事業

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全て中止した。

#### ◇記念講演会 I 「陶彫・制作の背景と芸術性」

講師：三谷 巍氏 (フリーキュレーター・元鳥取県立博物館学芸員/本展監修者)

#### ◇記念講演会 II 「彫刻と陶芸、デザイン」

講師：菊地敦己氏 (グラフィックデザイナー/アートディレクター/  
東北芸術工科大学客員教授)

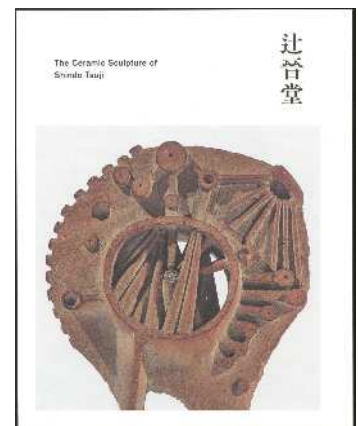
#### ◇スライドレクチャー「辻晉堂の野外彫刻、陶壁」

#### ◇担当学芸員による展示解説

#### ◇ワークショップ「似顔彫刻—写真から陶彫へ—」

#### ◇音声ガイド

#### ◇お迎え花



図録表紙

主要関連記事

#### ◇新聞

「辻晉堂の陶彫展」(朝日新聞 1月9日朝刊)

小林裕子「「異才 辻晉堂の陶彫」展開幕」(朝日新聞 5月20日朝刊)

井上隆生「「陶彫」を探求 辻晉堂の世界」(朝日新聞 5月21日朝刊)

谷口大河「愛知 異才・辻晉堂の回顧展」(中日新聞 6月1日夕刊)

勝田琴絵「展評 異才 辻晉堂の陶彫「陶芸であらざる」の造形から」(名古屋美術館ニュース 2020年夏号)

#### ◇雑誌

「石塚源太に聞く、異才・辻晉堂の魅力。」(『Casa BRUTUS』5月号)

入澤聖明「異才 辻晉堂の陶彫「陶芸であらざる」の造形から」(『陶説』第805号)

入澤聖明「異才 辻晉堂の陶彫「陶芸であらざる」の造形から」(『炎芸術』142号)

天野一夫「自然(じねん)的作品-中京圏初の辻晉堂展」(『芸術批評誌リア45号』2020年10月5日刊行)

#### ◇ウェブサイト

エリアレポーターS.E.「【読者レポート】愛知県陶磁美術館 異才 辻晉堂の陶彫「陶芸であらざる」の造形から」(インターネットミュージアム 5月23日から掲載)

井上昇治「異才 辻晉堂の陶彫「陶芸であらざる」の造形から」(OutermostNAGOYA 6月4日から掲載)

「辻晉堂の陶彫を紹介 愛知県陶磁美術館」(日本のうつわスタイル J-ware sTYLe 6月28日から掲載)

黒川博行、伊藤嘉章、入澤聖明、「辻晉堂の陶彫展(愛知県陶磁美術館)を巡ろう」

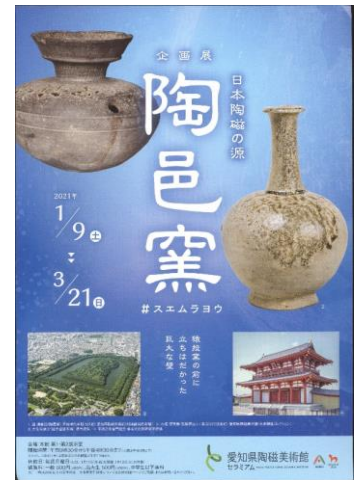
(ニコニコ美術館 (<https://ch.nicovideo.jp/niconicomuseum>) 6月10日午後6時30分～9時30分生中継)

#### ④ 企画展「日本陶磁の源・陶邑窯 —猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁—」

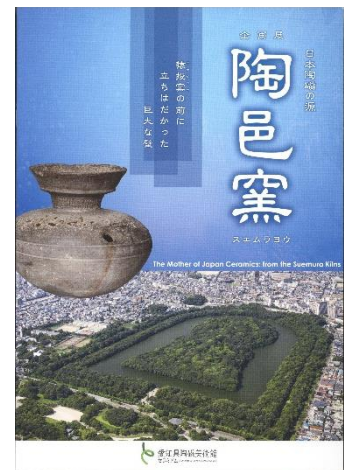
国内最古の陶産地・陶邑窯について、本多静雄コレクションを軸に、作風の軌跡を紹介し、陶邑窯と並ぶ古代陶磁の大産地である猿投窯の作品群との比較展示を行った。

本展は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会期を変更して開催した。

会 期	[予定] 令和2年6月13日(土)～7月26日(日) [変更] 令和3年1月9日(土)～3月21日(日)
開催日数	68日間
会 場	本館1階 第1・第2展示室
主 催	愛知県陶磁美術館
後 援	愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社
特別協力	名古屋大学考古学研究室
出品件数	154件
観覧者数	4,381人
普及出版	リーフレット (A4 16頁) ポスター (B2、B3) チラシ (A4 (2種))



A4 チラシ



リーフレット表紙

#### 教育・普及事業

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員を半減して開催した。

#### ◇スペシャル講座1「陶邑窯研究の最前線」

2月6日(土) 午後1時30分～3時 講堂

講師：尾崎綾亮氏（愛知県埋蔵文化財調査センター）

#### ◇スペシャル講座2「陶邑窯衰退以後の須恵器—平安京周辺の須恵器づくり」

2月20日(土) 午後1時30分～3時 講堂

講師：稲本悠一氏（(公財)兵庫県まちづくり技術センター）

#### ◇学芸員・大西による連続講座「古代史×陶邑窯」

1月10日(日)「古墳時代の産業革命—陶邑窯誕生！」

1月24日(日)「海を渡った最新技術、大和政権の傘下に至る」

2月21日(日)「飛鳥時代の食器革命」

3月7日(日)「奈良時代の造形美—陶邑窯最後の隆盛」

3月21日(日)「古代やきもの史の両雄—陶邑窯と猿投窯」

両日ともに午後1時30分～3時 本館玄関ロビー

講師：大西 遼（学芸員）

#### ◇学芸員・大西と古代のやきものに触れよう！

1月17日(日)「世界遺産『百舌鳥・古市古墳群』の時代の器に触れる」

1月31日(日)「聖徳太子・天武天皇の時代の器に触れる」

2月28日(日)「聖武天皇の時代の器に触れる」

3月14日(日)「古代やきもの史に触れる—土器・陶邑・猿投」

両日ともに午後1時～4時 本館玄関ロビー

講師：大西 遼（学芸員）、宮川菜々子（同）、井上隼多（同）

#### ◇学芸員・井上隼多による最前線講座

「最新技術で陶邑窯・猿投窯の須恵器に挑む!! —3D技術を駆使した少し未来の考古学—」

2月14日(日) 午後1時30分～3時 講堂

講師：井上隼多（学芸員）

#### ◇3Dデータを用いた観覧特典

1月9日(土)～3月21日(日) ぐるぐる回る3D須恵器をゲット

第1・第2展示室

2月6日(土)～2月21日(日) 古代の名品を体で感じよう！

第2展示室

2月12日(金)～2月14日(日) 3Dプリンターによるレプリカ作成の実演

展示説明室

協力：日本3Dプリンター株式会社

#### ◇連続講座「甕から亀へ—古代のやきものの技でカメを作ろう」

1月23日(土)「古代のやきものを見る、カメ(甕)を作る」

午前10時30分～午後4時 本館会議室・陶芸館

1月30日(土)「カメ(甕)からカメ(亀)を作る」

午後1時30分～3時30分 陶芸館

講師：大西 遼（学芸員）宮川菜々子（同）、岩渕 寛（陶芸指導員）、清水美香子（同）  
参加者作品を本館1階ロビーに展示（2月23日（火・祝）～3月21日（日））  
※詳細は40頁を参照

◇学芸員・大西と行く古代窯跡

1月16日（土）「長久手三ヶ峯窯＋南山8・9号窯」  
午前10時30分～午後3時 長久手市、当館古窯館  
2月26日（金）「日進市香久山古窯＋市道1号窯」  
午前10時30分～午後3時 日進市、当館敷地内  
両日ともに講師：大西 遼（学芸員）

◇音声ガイド

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、行わなかった。

◇お迎え花：二宮永華氏（拈華流）

主要関連記事

◇テレビ

グリーンシティケーブルテレビ そらまめ通信（令和年1月21日放送）

◇新聞

「古代の産業革命「陶邑窯」を紹介 県陶磁美術館があすから」（中部経済新聞 1月8日）  
西川侑里「現代の硬い器の原点「須恵器」の変遷迫る」（中日新聞 1月20日）  
「陶邑窯と猿投窯 愛知県陶磁美術館」（陶業時報 2月1日）  
「須恵器にロマン感じて 県陶磁美術館 3Dプリンターで複製」（中日新聞 2月19日）  
中村俊介「普段は脇役、須恵器からみえる歴史ロマン いろんな形で」（朝日新聞 3月7日）  
宮崎正嗣「陶邑窯 興亡たどる 愛知県陶磁美術館で展覧会」（中日新聞 3月8日）

◇雑誌

大西 遼「日本陶磁の源・陶邑窯―猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁―」（『陶説』第812号）  
大西 遼「愛知県陶磁美術館 企画展「日本陶磁の源・陶邑窯（すえむらよう）」」（『JAPPI NEWSLETTER』No. 261）  
大西 遼「たより 愛知県陶磁美術館「YAYOI」「陶邑」2つの展覧会を開催」（『考古学研究』第67巻第2号）  
大西 遼・井上隼多「たより まもなく開催、愛知県陶磁美術館「陶邑窯」展」（『考古学研究』第67巻第3号）  
インタビュー大西遼「陶邑窯から猿投窯へ 古代陶器の変遷」（『目の眼』No. 533）  
清水穰「東海の陶芸展 日本陶磁の源・陶邑窯―猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁―」（『陶説』第815号）  
「展覧会プレビュー 日本陶磁の源・陶邑窯―猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁―」（『炎芸術』No. 145）  
「企画展 日本陶磁の源・陶邑窯―猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁―愛知県陶磁美術館」（『小さな蕾』No. 632）

⑤ 企画展「海洋文明 ―中国 海南省博物館所蔵品展―」

中国 海南省博物館が所蔵する、南宋時代の沈没船「華光礁I号」から発見された徳化窯・景德鎮窯の民窯製品をはじめ、豊かな海洋文明を紹介する展覧会を企画していた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大のため開催中止となった。

⑥ 本館テーマ展「癒しのノベルティ楽園」

20世紀初頭から瀬戸でつくられるノベルティに焦点をあて、癒しをテーマに表情豊かな人物のノベルティ、躍動感あふれる動物のノベルティを紹介した。

本展は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、企画展の会期等変更に伴い臨時開催した。

会 期	7月4日（土）～8月2日（日）
開催日数	26日間
会 場	本館1階 第1・第2展示室
主 催	愛知県陶磁美術館
出品件数	213件
観覧者数	1,308人



- 教育・普及事業  
 ◇ノベバラ大喜利  
 会期中に会場と SNS により投稿募集

主要関連記事

- ◇新聞  
 記事「癒しのノベルティ楽園」（陶業新報 7月1日）  
 記事「世界癒やしたノベルティ」（中日新聞 7月30日）  
 ◇テレビ  
 名古屋テレビ放送（メーテレ） 午後6時台のニュース  
 CBC テレビ 午後5時台のニュース

## ⑦ 南館テーマ展

### ⑦-1 「洋食器 —輸出されたやきものの華(1)—」

究極の白い素地の開発とともに発展し、海外に向けて盛んに輸出された日本の陶磁器産業の発展について、当館所蔵の洋食器コレクションを中心に紹介した。

本展は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館に伴い、会期を変更して開催した。

会 期	4月1日(水)～7月26日(日) ただし、感染症拡大防止対策のため、4月11日(土)から5月17日(日)まで臨時休館
開催日数	100日間→81日間
会 場	南館1階展示室
主 催	愛知県陶磁美術館
出品件数	8件
観覧者数	859人

### ⑦-2 「ノベルティ —輸出されたやきものの華(2)—」

日本を代表するやきもの産地・瀬戸を中心に製作された「ノベルティ」にスポットをあて、20世紀前期の人物ノベルティから、最盛期1980-90年代のレース人形や躍動感あふれる動物ノベルティまでを紹介。

会 期	7月28日(火)～11月29日(日)
開催日数	104日間
会 場	南館1階展示室
主 催	愛知県陶磁美術館
出品件数	20件
観覧者数	2,424人

### ⑦-3 「やきものとデザイン 陶磁器デザイナーのパイオニア 森 正洋」

変化する時代を意識しながら常に「現代の日常の器」を目指した陶磁器デザイナー森正洋(1927-2005)のプロダクト製品の中から、代表的なロングセラーの器を紹介。

会 期	12月1日(火)～令和3年3月28日(日)
開催日数	98日間
会 場	南館1階展示室
主 催	愛知県陶磁美術館
出品件数	6件
観覧者数	1,752人

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度は南館テーマ展の教育・普及事業：ワークショップは全て中止した。

## (2) 常設展

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、常設展は全て4月11日(土)から5月17日(日)まで臨時休館とした。

### ① 日本と世界のやきもの

名品部門と通史部門を設置し、前者では美術館的展示、後者では歴史博物館的展示の手法によって世界各地の古陶磁を紹介。また通史部門・日本ゾーンでは古窯陶磁資料展示コーナーも併催した。

本展内のトピック展示コーナーでは、「倣古-中国古銅器から生まれた陶磁器」を開催した(第5展示室)。

会 期	4月1日(水)～令和3年3月31日(水)
開催日数	275日間
会 場	本館2階 第3～第6展示室
出品件数	名品部門 39点 通史部門 日本ゾーン (古窯陶磁除く)219点、古窯陶磁資料 1,290点 外国ゾーン 中国陶磁 127点、韓国陶磁 33点、その他外国陶磁 161点
観覧者数	9,077人

### ② 現代の陶芸-やきものと身体-

やきものは、可塑性のある土を成形してかたちを作り上げていくため、作り手の身体性を密に反映している。本展では館蔵の現代陶芸コレクションを「身体」というキーワードで捉え、さまざまな角度からやきものと身体の間を関係性を紹介した。

会 期	4月1日(水)～令和3年3月31日(水)
開催日数	275日間
会 場	本館地下1階 第7展示室
出品件数	23点
観覧者数	8,932人

### ③ 瀬戸・常滑作家コーナー

瀬戸陶芸協会並びに常滑陶芸作家協会の協力のもと、瀬戸・常滑で活躍する地元作家を紹介した。展示作品は、半年毎に全て入れ替えた。

会 期	4月1日(水)～令和3年3月31日(水)
開催日数	275日間
会 場	本館地下1階 講堂前ホール
出品件数	延べ20点
観覧者数	8,932人

### ④ もっと伝えたい、愛知のやきもの

「愛知のやきもの「今」」(南館1階展示室)

瀬戸、常滑、高浜周辺、名古屋周辺など愛知県内の各陶産地で作られるやきもの「今」について、「街、人、やきもの」をテーマに紹介した。また、展示室中央コーナーで3回のテーマ展を開催した。

「愛知のやきもの1万年」(南館2階展示室)

通史展示部門とトピック展示部門を設置。前者では原始から近世にかけての愛知県の陶磁史を遺跡出土資料や伝世資料によって紹介した。後者では、愛知用水関連資料及び古陶磁鑑賞の展示コーナーを設けて展示紹介した。

\*協力：愛知県埋蔵文化財調査センター、あいち朝日遺跡ミュージアム  
(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

会 期	令和2年4月1日(水)～令和3年3月31日(水)
開催日数	275日間
会 場	南館1階展示室及び2階展示室
出品件数	1階展示室120点、2階展示室230点
観覧者数	5,007人

### ⑤ 陶磁のこま犬百面相

中世から近代にかけて、瀬戸・美濃地方の神社への奉納物として作られたやきもののこま犬について、愛知県指定有形民俗文化財「陶製狛犬コレクション」を中心に展示紹介した。

会 期	4月1日(水)～令和3年3月31日(水)
開催日数	275日間
会 場	西館展示室
出品件数	100点
観覧者数	3,664人

## (3) その他の展示

### ① サテライト展示「喫茶を彩る-ティーセットの世界-

愛知芸術文化センター(名古屋市東区)地下1階の当館ミニ・ギャラリーで、所蔵品によるサテライト展示を行っている。令和2年度は「喫茶を彩る-ティーセットの世界」をテーマに作品を紹介した。

会 期	4月1日(水)～令和3年3月31日(水)
開催日数	306日間
会 場	愛知芸術文化センター 地下1階フォーラム
協 力	愛知県美術館
出品件数	5点

### ② 愛知用水関連資料等特別展示

折戸37号窯跡出土資料を、愛知用水の管理機関である愛知用水総合管理所庁舎で展示公開した。10月に折戸38号窯跡出土資料へ展示替えを予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示替えは行わなかった。(愛知用水関連資料：愛知用水建設に関連して愛知県教育委員会が昭和30年から昭和37年にかけて調査を行った、用水流域の古窯跡から出土した陶片資料)

会 期	4月1日(水)～令和3年3月31日(水)
開催日数	365日間
会 場	愛知用水総合管理所1階 中庭西側ホール
協 力	独立行政法人水資源機構愛知用水総合管理所
出品件数	4点

### ③ 愛知県美術館・愛知県陶磁美術館 令和2年度 移動美術館

例年、愛知県美術館と当館は県内市町村と連携して館外作品展を開催している。令和2年度は令和3年1月23日(土)から3月7日(日)まで豊橋市美術博物館で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。

## (4) 企画展示事業の自己評価

### ① 特別展「The 備前 ー土と炎から生まれる造形美ー」

本展は、東海地域でも初となる備前焼の全貌を紹介する展覧会として、桃山時代、江戸時代初期の古備前の名品から近・現代の陶芸作家の作品まで 148 点を紹介した。

本展の特徴である古備前から現代陶芸作品まで網羅をアピールするため、両方をポスター・チラシのメインビジュアルとした。古備前は名古屋ゆかりの〈耳付花入 銘・太郎庵〉を、現代陶芸は隠崎隆一・作〈混淆陶管〉を選んだ。ポスターによる広報では、数年ぶりとなる名古屋市地下鉄交通広告(18 駅)に B1 ポスター掲示を行った。

共催テレビ局による取材の他、共催がなかった各新聞社の取材もあった。全体に現代陶芸が多く取り上げられた。また、同じく六古窯を有する愛知での開催ということもあり、一般来場者だけでなく陶磁関係者の注目も集める展覧会となった。

2 度目の緊急事態宣言が発出されたため、ゲスト講師によるスペシャルギャラリートークは事前収録のビデオ上映へと変更、開会式、備前の酒器を用いての利き比べ講座、外部カルチャーセンターでの連続講座は中止となった。一方、記念講演会は定員に近い人気となり、またワークショップは備前焼の牡丹餅に着想を得た内容とし、備前焼への理解を深められるよう工夫して実施し、参加者に好評を得ることが出来た。

### ② 特別展「YAYOI・モダンデザイン ーニッポンの美、ここに始まるー」

本展はいち朝日遺跡ミュージアムの開館に関連して構想したもので、文化芸術・文化財関連の県立社会教育施設が連携した、文化財保護の普及啓発活動であった。愛知県埋蔵文化財センターが企画構成、当館が開催実施を担当することにより、弥生時代に関する考古学による最新の調査研究成果を、埋蔵文化財調査機関及び美術館として、効率的かつ効果的に情報発信した。

弥生時代の遺物を美術工芸品やデザインの観点から展示紹介することは例がなく、今後の考古系展示のモデルケースとなったといえる。また、展示の主要部分は土器と木製品をほぼ回数で構成されたため、陶磁専門館における展示の在り方についても提議されたともいえる。

インターネット動画サイトや一般雑誌など、当館企画展としてはマスコミ・メディアへの露出が多く考古学のみならず美術工芸への関心層へも広く情報発信できた。コロナ禍(第三波)ではあったが、県外からの来館者も多く、当館の利用者層を拡大することができた。

### ③ 企画展「異才 辻晋堂の陶彫 ー「陶芸であらざる」の造形からー」

本展は、日本を代表する彫刻家・辻晋堂の手がけた陶彫に着目し、初期から晩年に至るまでの変遷を全 79 作品で紹介した。東海圏で辻の回顧展が開催されることは初めてであり、陶磁関係者だけでなく、美術方面からも注目度が高かった。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて緊急事態宣言が発出され、開幕前日に休館措置となったが、早急に巡回先や関係各所に会期の変更・延長を申請したことで短いながらも開催が実現した。

また、記念講演会やギャラリートーク、ワークショップ等のイベントが実施できなかったものの、この状況下における新たな鑑賞の試みとして、ネットメディアのドワンゴが運営する番組「ニコニコ美術館」で当館のコレクションと本展を紹介する機会を得た。通算の視聴数は 16,500 余にのぼり、普段の当館利用者とは異なる客層への周知をすることができた。

そのほか、美術批評誌や新聞掲載・アート系 WEB メディアの掲載も多く、アンケートでは利用者の満足度も高かったため、一般的認知度は高いと言えない作家の回顧展であったが、比較的好評を得たといえる。

#### ④ 企画展「日本陶磁の源・陶邑窯 ー猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁ー」

本展は、当館所蔵の本多静雄コレクションのうち、陶邑窯出土須恵器に関する初めての大規模な展示紹介の機会であった。一部豊田市所蔵、個人蔵の作品も加え、関連する寄贈外国陶磁や地元猿投窯の資料を加えることで、陶邑窯の地元である関西ではなく、当館ならではの陶邑窯展となるよう意図した。

展示では、作品群の歴史的背景をイメージ出来るような図や遺跡の写真等を取り入れたパネルを多用した。これは、一般に馴染みが薄いと思われる当窯の作品群について、心理的な壁を取り除き、作品の持つ世界に入りやすいよう意図した。観覧者アンケートの結果からも、展示数やパネル等への評価は比較的高く、内容についても分かりやすく面白さが伝わったという旨の評価が多く見られた。

本展については、新聞や陶磁専門誌で大きく取り上げられることも多く、業界や地域からの関心度は比較的高かった。一般に馴染みの薄い分野であるため、多くの関連事業を行い、担当や講師から直接来館者へ魅力を伝えるよう努力した結果、各事業毎回多くの参加があり、好評を得た。

#### ⑤ 本館テーマ展「癒<sup>いや</sup>しのノベルティ<sup>パラダイス</sup>楽園」

本展は、コロナウィルス感染症拡大防止対策として展覧会スケジュールが変更となったため、陶磁美術館が所蔵する瀬戸ノベルティのコレクションを活用して臨時開催した。本展の第一の目的は非常事態下で多くの方が閉塞感を感じている時にこそ芸術文化を通じて“癒し”を提供すること、第二の目的は県越えの移動自粛の状況下で地元ゆかりの文化・産業の歴史に触れる機会を提供することであった。アンケート結果等から一定の効果はあったと思われる。

会場構成は、人物、花、鳥、動物など躍動感あるノベルティを活かして、展示室を楽園に見立ててディスプレイを行った。また若い層を主なターゲットとして、直観で作品にコメントをつけてもらう「ノベルティ大喜利」と題した SNS 連動の参加体験、鑑賞イベントを実施した。楽しみながら作品を自分の眼差しでじっくり鑑賞してもらうことができたことと好評であった。

また若い層と共に往時の瀬戸の好況を知る年代の方々も来館され、通常の焼き物ファンとは違う層の来館者を得ることができた。

## 2 資料

資料の収集については、収集方針に基づき、日本陶磁史の全体像を系統的に理解できるように全国の主要な窯業地の陶磁作品、海外の代表的な窯業地の陶磁作品、国内外の現代陶芸、陶磁器産業資料及び窯業関連資料を収集した。

作品の資料情報については、クラウド型収蔵品管理システム「I. B. MUSEUM SaaS」を用いて管理を行った。資料の活用については、資料取扱要領に基づき、貸出及び画像の撮影・掲載等を承認した。

### (1) 資料収集

#### ①購入資料

個人より愛知県への寄附を原資として、美術品等購入基金により下記1点を購入した。

No.	資料名称	産地、作者等	時代、年代	点数	備考	管理区分	館蔵品No.	写真No
1	灰釉蕨手唐草文手付水注	瀬戸	鎌倉時代（14世紀前葉）	1	北大路魯山人旧蔵	陶磁器	A-7201	4

#### ②寄附資料

波状文広口壺はじめ16件1,515点の寄附を受け入れた。

No.	資料名称	産地、作者等	時代、年代	点数	寄付者(敬称略)	管理区分	館蔵品No.	写真No
1-1	波状文広口壺	須恵器／陶邑	古墳時代中期（5世紀前半）	1	小池喜久代	陶磁器	A-7185	1
1-2	提瓶	須恵器／陶邑系	古墳時代後期（6世紀後半）	1	小池喜久代	陶磁器	A-7186	
1-3	はそう	須恵器／猿投	飛鳥時代（7世紀前半）	1	小池喜久代	陶磁器	A-7187	
1-4	広口壺	須恵器／猿投または尾北	飛鳥時代末期－奈良時代前期（7世紀末－8世紀前葉）	1	小池喜久代	陶磁器	A-7188	
1-5	波状文広口壺	陶質土器／韓国 小加耶	三国時代（5世紀）	1	小池喜久代	陶磁器	A-7189	
1-6	波状文広口壺	陶質土器／韓国 小加耶	三国時代（5世紀）	1	小池喜久代	陶磁器	A-7190	
1-7	刻文有蓋高杯	陶質土器／韓国 新羅	三国時代（6世紀）	1	小池喜久代	陶磁器	A-7191	
2-1	猿投窯東山地区出土資料（東山201号窯）	須恵器・瓷器／猿投・東山201号窯	飛鳥時代（7世紀後半）、奈良時代末期－平安時代前期前半（8世紀末－9世紀前半）、平安時代前期（9世紀）	54	上田厚子	陶磁器	A-7192-1	3
2-2	猿投窯東山地区出土資料（東山212号窯）	瓷器／猿投・東山212号窯	平安時代末期（11世紀末－12世紀前葉）	44	上田厚子	陶磁器	A-7192-2	
2-3	城山古墳群出土資料	埴輪／猿投	古墳時代中期－後期（5世紀後半－6世紀前葉）	75	上田厚子	陶磁器	A-7192-3	2
2-4	猿投窯東山地区出土資料（猫ヶ洞東坂上道路）	須恵器／猿投	飛鳥時代－奈良時代（7-8世紀）	13	上田厚子	陶磁器	A-7192-4	
2-5	猿投窯東山地区出土資料（日和町地表）	須恵器／猿投	飛鳥時代－奈良時代（7-8世紀）	88	上田厚子	陶磁器	A-7192-5	

No.	資料名称	産地、作者等	時代、年代	点数	寄付者 (敬称略)	管理 区分	館蔵品 No.	写真 No
2-6	猿投窯東山地区出土資料(日和町)	須恵器/猿投	飛鳥時代-奈良時代(7-8世紀)	107	上田厚子	陶磁器	A-7192-6	
2-7	猿投窯東山地区出土資料(日泰寺境内)	須恵器・瓷器/猿投	飛鳥時代-平安時代中期(7-10世紀)、平安時代末期(11世紀末-12世紀前半)	58	上田厚子	陶磁器	A-7192-7	
3	陶磁水滴コレクション	瀬戸、美濃、九谷、有田、中国など	鎌倉時代-平成年間(14世紀-21世紀)	1,062	大島国康	陶磁器	A-7193	5・6
4-1	干支ウイスキーボトル2012辰	加藤工芸株式会社/名古屋	2012年	1	加藤勇夫	陶磁器	A-7194	7
4-2	干支ウイスキーボトル2013巳	加藤工芸株式会社/名古屋	2013年	1	加藤勇夫	陶磁器	A-7195	
5-1	アロハオリベ椅子	鈴木五郎/愛知県豊田市	2001年	1	惣田田	陶磁器	A-7196	8
5-2	ロスオリベ土瓶	鈴木五郎/愛知県豊田市	2003年	1	惣田田	陶磁器	A-7197	9
5-3	弥七田茶碗	鈴木五郎/愛知県豊田市	1989年	1	惣田田	陶磁器	A-7198	
5-4	黄瀬戸珈琲碗	鈴木五郎/愛知県豊田市	2007年頃	1	惣田田	陶磁器	A-7199	
5-5	絵織部鉢	鈴木五郎/愛知県豊田市	2007年頃	1	惣田田	陶磁器	A-7200	



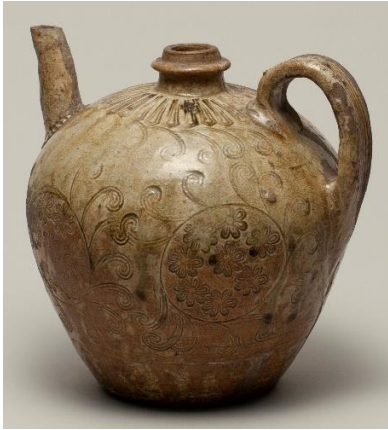
1 波状文広口壺  
須恵器/陶邑 1個  
高さ 21.1 口径 18.6 胴径 21.4  
底径—  
古墳時代中期(5世紀前半)  
小池喜久代氏寄贈  
A-7185  
Jar, Sue ware. Middle Kofun  
period, early 5th century.  
Suemura.  
Gift of Ms. KOIKE Kikuyo



2 城山古墳群出土資料  
埴輪/猿投 75個  
古墳時代中期-後期  
(5世紀後半-6世紀前葉)  
上田厚子氏寄贈  
A-7192-3  
Shards from Shiroyama tumulus  
clusters, Haniwa ware, Sanage.  
Middle-late Kofun period, late  
5th-early 6th centuries.  
Gift of Ms. UEDA Atsuko.



3 猿投窯東山地区出土資料  
(東山201号窯) 須恵器・瓷器  
/猿投・東山201号窯 54個  
飛鳥時代、奈良時代末期-平安  
時代前期前半、平安時代前期  
上田厚子氏寄贈  
A-7192-1  
Shards from Higashiyama  
district of Sanage kiln sites, 201  
Higashiyama kiln, Sue ware,  
glazed ware. Asuka, late Nara-  
first quarter of Heian, early  
Heian periods.  
Gift of Ms. UEDA Atsuko.



4 灰釉蕨手唐草文手付水注  
瀬戸 北大路魯山人旧蔵 1個  
高さ 19.3 口径 3.0 胴径 18.8  
底径 10.0  
鎌倉時代(14世紀前葉)  
個人から愛知県への寄附を原資として購入。A-7201  
Ewer, scroll pattern, ash glaze.  
Seto ware. Kamakura period,  
early 14th century.



5 鉄釉印花蓮弁文水滴  
瀬戸 伝・禰宜古窯出土 1個  
高さ 3.7 口径 1.9 胴径 5.7  
底径 3.3  
南北朝時代(14世紀中葉)  
大島国康氏寄贈  
A-7193-5  
Water Dropper, stamped lotus  
petal pattern, iron glaze. Seto  
ware, probably from Negi old  
kiln site. Nanbokuchō period,  
mid-14th century.  
Gift of Mr. OSHIMA Kuniyasu.



6 鉄釉鳥視き印花剣先文水滴  
瀬戸 伝・禰宜古窯出土 1個  
高さ 4.7 口径 1.8 胴径 6.0  
底径 3.7  
南北朝時代(14世紀中葉)  
大島国康氏寄贈  
A-7193-1  
Water Dropper with bird-shaped  
handle, stamped sword tip  
pattern, iron glaze. Seto ware,  
probably from Nagi old kiln site.  
Nanbokuchō period, mid-14th  
century.  
Gift of OSHIMA Kuniyasu.



7 干支ウイスキーボトル 2012年辰  
加藤工芸株式会社/名古屋 1個  
高さ 22.5 口径 3.0  
幅 14.8×8.7  
2012年  
加藤勇夫氏寄贈  
A-7194  
Chinese Zodiac whisky bottle,  
2012 dragon. Kato Kogei Co.,  
Ltd., Nagoya. 2012.  
Gift of Mr. KATO Isao.



8 アロハオリベ椅子  
鈴木五郎/愛知豊田 1個  
高さ 55.0 幅 23.5×26.0  
2001年  
惣田田氏寄贈  
A-7196  
Aloha-Oribe Chair. SUZUKI  
Goro, Toyota. 2001.  
Gift of Ms. SODA Ken.



9 ロスオリベ土瓶  
鈴木五郎/愛知豊田 1個  
高さ 23.5 幅 32.0×23.0  
2003年  
惣田田氏寄贈  
A-7197  
Los-Oribe Tea Pot. SUZUKI  
Goro, Toyota. 2003.  
Gift of Ms. SODA Ken.

\*掲載順序およびキャプションの形式は『所蔵品図録』に準じる。

\*法量の単位はcmで示した。

## (2) 資料の活用

### ①所蔵資料の貸出

美術館等からの借用の依頼に対して、展覧会の内容や該当作品の保存状態などを考慮し、所蔵資料等を貸出した。

No.	貸出期間	資料名称	点数	借用者	展覧会等の名称
1	令和 2. 4. 1～ 令和 3. 3. 31	灰釉平碗 他	8	愛知県政策企画局秘書課	公館内掲出
2	令和 2. 4. 1～ 令和 3. 3. 31	天目茶碗 他	7	愛知県議会事務局総務課	議長室掲出
3	令和 2. 4. 1～ 令和 3. 3. 31	天目茶碗 他	27	瀬戸市	瀬戸蔵ミュージアム常設展「瀬戸焼の歩み」
4	令和 2. 4. 1～ 令和 3. 3. 31	青瓷素地 椀蓋 他	12	みよし市立歴史民俗資料館	常設展「みよしの古窯」
5	令和 2. 4. 1～ 令和 3. 3. 31	アルミナセラミックス・ヴァイオリン 他	5	一般財団法人 ファインセラミックスセンター	ファインセラミックスセンター常設展
6	令和 2. 4. 9～ 令和 2. 6. 30	青瓷素地 火舎香炉 他	79	みよし市立歴史民俗資料館	企画展「黒笹 90 号窯跡展」
7	令和 2. 6. 4～ 令和 2. 9. 18	青磁鎬蓮弁文碗 他	12	可児市	荒川豊蔵資料館企画展「戦国期の茶陶」
8	令和 2. 10. 15～ 令和 2. 12. 1	染付四君子文二段重 他	8	彦根城博物館	特別展「幻の名窯 湖東焼」
9	令和 2. 6. 24～ 令和 2. 12. 1	禁煙（禁煙の名人）	2	米子市美術館 美術館「えき」KYOTO	企画展「異才 辻晋堂の陶彫」
10	令和 2. 6. 28～ 令和 2. 11. 5	白瓷牡丹輪花鉢	1	茨城県陶芸美術館	企画展「青か、白か ー青磁×白磁×青白磁」
11	令和 2. 9. 19～ 令和 2. 12. 22	灰釉瓶子 他	12	滋賀県立陶芸の森	特別展「奇跡の土ー信楽焼をめぐる三つの景色」
12	令和 2. 10. 14～ 令和 2. 12. 2	青花鳥文皿	1	蒲郡市博物館	企画展「カケラノチカラ」
13	令和 2. 9. 25～ 令和 2. 12. 1	染付松竹梅文茶碗 他	4	瀬戸市美術館	特別企画展「初期瀬戸染付の謎」

\* 掲載は貸出順。令和元年度から 2 年度にかけて 2 ヶ年度に渡る貸出については『館報』27 号に掲載済。

\* 寄託資料等、当館保管資料を含む。

### ②所蔵資料の写真撮影等

出版社等からの写真撮影・掲載の依頼に対して、出版物等の内容を考慮し、写真等の撮影・掲載を承認した。

No.	掲載等年月日	資料名称	点数	申請者／掲載者	掲載誌等の名称
1	令和 2. 4 月	色絵(青手)花文皿 他	16	株式会社 誠文堂新光社	『やきものの教科書』
2	令和 2. 6 月	灰釉葦鷺文三耳壺	1	株式会社 中部経済新聞社	連載記事「現代に息づく東海の DNA」
3	令和 2. 6. 1	青磁鎬連弁文碗 他	12	可児市	荒川豊蔵資料館令和 2 年度企画展「戦国期の茶陶」 展覧会図録・広報媒体
4	令和 2. 6. 1	禁煙(禁煙の名人) 他	2	米子市美術館、美術館「えき」KYOTO	「異才 辻晋堂の陶彫」展 広報用媒体等

No.	掲載等年月日	資料名称	点数	申請者／掲載者	掲載誌等の名称
5	令和 2. 6. 1	常滑 他	2	株式会社 生活の友社	『鯉江良二物語』
6	令和 2. 6 月公開	セラミック楽器バイオリン 他	4	DAITO 株式会社	DAITO 株式会社の記録・公開用動画
7	令和 2. 7. 1	灰釉多口瓶 他	32	豊田市民芸館	『名誉市民 本多静雄 古陶磁コレクション目録』
8	令和 2. 7. 18	白瓷牡丹文輪花鉢	1	茨城県陶芸美術館	企画展「青か、白か、一青磁×白磁×青白磁」展覧会図録・広報媒体
9	令和 2. 9 月	灰釉葦鷺文三耳壺 他	4	株式会社 東京美術	『もっと知りたいやきもの』
10	令和 2. 9 月	灰釉瓶子 他	12	滋賀県立陶芸の森	特別展「奇跡の土ー信楽焼をめぐる三つの景色」教育普及・広報媒体等
11	令和 2. 9 月	壺 他	3	株式会社 青丹社	『みらいら』2020 年 9 月号
12	令和 2. 9. 25	染付松竹梅文茶碗 他	4	瀬戸市美術館	特別企画展「初期瀬戸染付の謎ー加藤民吉とその時代ー」印刷物・広報媒体
13	令和 2. 10 月	染付四君子文二段重 他	9	彦根城博物館	特別展「幻の名窯 湖東焼ー彦根藩窯の盛衰ー」図録、広報媒体・関連資料
14	令和 2. 10 月	灰釉多口瓶	1	有限会社 村島事務所	愛知県労働局 2025 年技能五輪国際大会招致事業リーフレット
15	令和 2. 10 月	灰陶井戸	1	株式会社 新典社	『とびらをあける中国文学ー日本文化の展望台』
16	令和 2. 10. 15	志野水指 他	2	株式会社 淡交社	月刊『淡交』令和 2 年増刊号
17	令和 2. 10. 20	黒織部茶碗	1	株式会社 かみゆ	朝日新聞出版『テーマ別だから理解が深まる日本史』文庫版(再版)
18	令和 2. 10. 25	染錦桜下酒宴図大皿	1	荒川正明	公益財団法人三徳庵発行『茶道の研究』2020 年 10 月号
19	令和 2. 10. 30	子供人形	1	瀬戸ノベルティ文化保存研究会	瀬戸ノベルティ文化保存研究会出版『カワイイ昭和～知られざるせともの・ノベルティ物語～』
20	令和 2. 11 月	灰釉鳥形平瓶 他	8	株式会社 小学館	『日本のやきものバイリンガルガイド』
21	令和 2. 11. 7	ウィスキーボトル 他	2	公益財団法人 横山美術館	企画展「目でも陶酔できる ウィスキーボトル展」図録
22	令和 2. 11. 17 放映	灰釉瓶子 他	8	株式会社 ネクサス	番組「開運！なんでも鑑定団」
23	令和 2. 12 月	灰釉葦鷺文三耳壺	1	株式会社 中部経済新聞社	連載記事「現代に息づく東海 DNA」
24	令和 2. 12. 20 放映	鉄絵葦文壺	1	株式会社 TBS スパークル	番組「じよんのび日本遺産」
25	令和 3. 1. 9～ 令和 3. 3. 28 掲載	灰釉手付瓶	1	名取市歴史民俗資料館	企画展「令和元年度発掘調査報告展」展示資料

No.	掲載等年月日	資料名称	点数	申請者／掲載者	掲載誌等の名称
26	令和 3.2 月	双耳深鉢 他	10	鈴木禎三	大学教育出版『陶の道 “ハザマでおもう”… 迫真の【窯変天目】への 道』
27	令和 3.2 月	染付唐草文皿 他	27	株式会社 誠文堂新 光社	陶工房 BOOKS シリーズ第 3 弾『やきものの文様』
28	令和 3.2.27	円筒深鉢 他	5	朝日学生新聞社編集 部	朝日小学生新聞学習面 「社会 なんでもか知って るよ」
29	令和 3.3 月	灰陶井戸 他	3	喜多藍	勉誠出版『中国古典文献 に描かれる「境界」とその 周辺』
30	令和 3.3 月	黒織部茶碗	1	株式会社 かみゆ	朝日新聞出版『テーマ別 だから理解が深まる戦国 史』文庫版(再版)
31	令和 3.3.12～ 令和 3.3.28 掲載	染付孔雀牡丹文重箱 他	10	なごや日本博事業実 行委員会	イベント「ストーリーミン グ・ヘリテージ 台地と 海のあいだ」展示資料
32	令和 3.3.29 発表	灰釉多口瓶 他	19	特定非営利活動法人 やきもの文化と芸術 振興協会	講演会「せとのやきもの の歴史」資料
33	令和 3.3.31	チェルノブイリ・シリ ーズ	1	芸術批評誌 REAR リ ア制作室	『芸術批評誌 REAR』46 号
34	令和 3.4 月	灰釉多口瓶	1	サイバー・ネット・ コミュニケーション ズ株式会社	開隆堂出版株式会社出版 『中学校美術資料集「表 現と鑑賞」愛知県版』
35	令和 3.4 月	花使図	1	株式会社 淡交社	淡交テキスト『絵の掛物 茶席の取り合わせ・待合 掛と画家』
36	令和 3.4.1～ 令和 4.3.31 掲載	天目茶碗 他	27	瀬戸市	瀬戸蔵ミュージアム令和 3 年度常設展「瀬戸焼の 歩み」教育普及・広報媒体
37	令和 3.4 月	須恵器三耳壺 他	3	株式会社 中部経済 新聞社	企画記事「六つの技から たどる愛知のものづく り」
38	令和 3.4.1	灰釉牡丹文瓶子	1	一般財団法人 小原 流	『小原流插花』4 月号
39	令和 3.4.1～ 令和 4.3.31 掲載	青瓷素地碗蓋 他	12	みよし市立歴史民俗 資料館	常設展「みよしの古窯」展 示資料・図録・広報媒体

\* 掲載は申請、承認順。

\* 寄託資料等、当館保管資料を含む。

### 3 調査・研究

当館の活動の基礎となる収集、展示、教育普及等に関する調査研究を行った。

#### (1) 調査事業等

学芸員の調査活動等のうち、主な事業は以下のとおりである。

内 容	期 間	場 所	学芸員
「沖縄県立芸術大学研究紀要」第 29 号 論文査読 (沖縄県立芸術大学)	令和 2. 10. 8～11. 7	当館	佐 藤
陶芸作品等価格評価	令和 2. 12. 26	滋賀県立陶芸の森	大 槻
収蔵品収集価格評価	令和 3. 1. 18	兵庫陶芸美術館	大 槻
博物館登録審査(愛知県教育委員会博物館登録審査会)	令和 3. 2. 10	刈谷市歴史博物館	小 川
愛知県博物館協会職員研修会『「コロナ禍での博物館活動」愛知県陶磁美術館の事例報告』	令和 3. 3. 12	名古屋市美術館	田 畑
愛知用水関連資料・猿投窯出土資料基本調査	令和 2. 4. 1～令和 3. 3. 31	当館	大 西 井 上

#### (2) 研究論文・研究発表

##### ①研究論文等

論 文 名	誌 名 / 号	発 行	学芸員
「日本六古窯と信楽」	『奇跡の土ー信楽焼をめぐる三つの景色』展覧会図録	滋賀県立陶芸の森 令和 2. 10	大 槻
「アメリカを酔わせた日本の陶磁器製ウイスキーボトル」	『目でも陶酔できるウイスキーボトル』展覧会図録	公益財団法人横山美術館 令和 2. 11. 7	大 槻
「忘れかけていた感覚が教室で蘇る」	『初等教育資料』11月号 (第 999 号)	文部科学省／東洋館出版社 令和 2. 11	小 川
連載「「文人趣味」にみる倣古一鼎」	『煎茶道』4月号 (第 752 号)	一般社団法人 全日本煎茶道連盟 令和 2. 4. 5	田 畑
連載「「文人趣味」にみる倣古一尊」	『煎茶道』5月号 (第 753 号)	一般社団法人 全日本煎茶道連盟 令和 2. 5. 5	田 畑
連載「「文人趣味」にみる倣古一觚」	『煎茶道』6月号 (第 754 号)	一般社団法人 全日本煎茶道連盟 令和 2. 6. 5	田 畑
連載「「文人趣味」にみる倣古一鬲」	『煎茶道』7月号 (第 755 号)	一般社団法人 全日本煎茶道連盟 令和 2. 7. 5	田 畑
連載「青銅器煎茶一爵」	『煎茶道』8月号 (第 756 号)	一般社団法人 全日本煎茶道連盟 令和 2. 8. 5	田 畑
連載「青銅器煎茶一卣」	『煎茶道』9月号 (第 757 号)	一般社団法人 全日本煎茶道連盟 令和 2. 9. 5	田 畑

論 文 名	誌 名 / 号	発 行	学芸員
トピック「古伊万里の故郷・有田」	『海を渡った古伊万里～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～』展覧会図録	株式会社キュレイトーズ 令和 2.11	佐久間
「地方における白瓷生産拡散の実態と猿投窯—尾張国知多半島・伊勢国・飛騨国・近江国・山城国の白瓷窯から—」	『東海窯業史研究論集』Ⅲ	東海窯業史研究会 令和 2.5	大 西 (共著)
「灰釉陶器出現前後の猿投窯—3. K-14 号窯(上) —」	『三河考古』第 30 号	三河考古刊行会 令和 2.6	大 西
「表紙写真解説 須恵器 灰釉蓋付短頸壺(薬壺)」	『東洋陶磁学会会報』第 93 号	東洋陶磁学会 令和 2.10	大 西
「コラム 2 曲線と直線—列島固有の美・直弧文—」	『YAYOI・モダンデザイン—ニッポンの美、ここに始まる—』図録	当館 令和 2.10	大 西
「日本陶磁の源・陶邑窯—猿投窯の前に立ちほだかった巨大な壁—」	『陶説』No. 812	日本陶磁協会 令和 3.1	大 西
「愛知県陶磁美術館 企画展「日本陶磁の源・陶邑窯(すえむらよう)」」	『JAPPI NEWSLETTER』No. 261	日本陶磁器産業振興協会 令和 3.2	大 西
「中世初期の東海地方における子持器台」	『中近世陶磁器の考古学』第 13 巻	雄山閣 令和 3.3	大 西
「『朝妻沖湖底遺跡』の調査成果と基礎的検討」	『人間文化』第 50 号	滋賀県立大学人間文化学部 令和 3.3	大 西 (共著)
愛知県陶磁美術館所蔵の辻晋堂作品にみる造形的特質—「陶芸であらざる」の造形から	『企画展 異才辻晋堂の陶彫「陶芸であらざる」の造形から』図録	当館 令和 2.4	入 澤
「異才 辻晋堂の陶彫「陶芸であらざる」の造形から」	『陶説』第 805 号	日本陶磁協会 令和 2.5	入 澤
「異才 辻晋堂の陶彫「陶芸であらざる」の造形から」	『炎芸術』第 142 号	阿部出版 令和 2.5	入 澤
「フォーカス・アイ 竹内真吾 形態による装飾が生み出す造形」	『炎芸術』第 142 号	阿部出版 令和 2.5	入 澤
展覧会図録和英・英和訳	『海を渡った古伊万里～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～』展覧会図録	株式会社キュレイトーズ 令和 2.11	宮 川

## ②研究発表等

発 表 名 等	発 表 日	場 所	学芸員
「教養と現代」講義「やきものをとおして世界を語る」(主催:名古屋芸術大学)	令和 2.10.5	名古屋芸術大学	佐 藤
アーツスペシャリストによる連続講座「近代の人 宮沢賢治」(主催:愛知県図書館)	令和 2.12.6	愛知県図書館	佐 藤
NEW TRADITIONAL 展 in 常滑トークセッション「ものをとおして人がつながる、人をとおしてものがつながる」(主催:文化庁/たんぼぼの家)	令和 3.1.30	INAX ライブミュージアム	佐 藤

発表名等	発表日	場所	学芸員
「知られざる古代の名陶 猿投窯」(愛知県生涯学習推進センター生涯学習あいち県民講座)	令和 3. 3. 13	当館	小 川
講座「中国四千年の陶磁史を概観～考古の遺物や煎茶文化」(1)	令和 2. 11. 10	朝日カルチャーセンター 名古屋教室	田 畑
講座「中国四千年の陶磁史を概観～考古の遺物や煎茶文化」(2)	令和 2. 11. 17	当館	田 畑
博物館メディア論ゲスト「これといった特技のない学生が、いったん会社員になったあと、学芸員をやりはじめて 10 年経った話」	令和 2. 10. 28	学習院大学 (オンライン講義)	佐久間
「大正期以降の個人制作をとりまく時代的諸相－楠部彌弍の活動を中心に－」	令和 3. 1. 27	京都市立芸術大学 (オンライン発表)	入 澤
第 73 回美術史学会全国大会「御室焼仁清・色絵変遷に関する研究の再解釈－尾形深省筆『陶工必用』と最新の研究成果をたよりに－」	令和 2. 12. 13	慶應義塾大学 (オンライン発表)	宮 川

### (3) 研究紀要

『愛知県陶磁美術館 研究紀要 26』を当館公式 WEB ページ上で刊行した。

論文名	掲載頁	学芸員
愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅳ －猿投窯黒笹・東山地区出土須恵器・瓷器の考古学的調査	1-13 頁	大 西
展示記録「愛知のやきもの一万年－躍動の縄文から華やぎの江戸まで－」 －陶磁美術館南館 2 階展示室における常設展示－	14-26 頁	小 川
展示記録 特集陳列「倣古－中国古銅器から生まれた陶磁器」	27-35 頁	田 畑

#### 4 教育・普及

多様な魅力を有する陶磁文化について理解を深めるため、講演会や講座、ワークショップ等を開催した。また、学校教育や地域団体との連携事業に取り組んだ。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部事業を中止または、内容や定員等を縮小して実施した。

##### (1) 教育講座（館内）

###### ① 展示関連事業

展示について理解を深めるため、講演会、講座、ワークショップなどを開催している。なお、本項以下に掲載の表における行事名は、メインタイトルを中心に掲載している。行事名の詳細については本書4～10頁を参照。

###### ①-1 特別展「The 備前 -土と炎から生まれる造形美-」

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
記念講演会 「備前焼の魅力と作風の展開」	8月8日（土）	講堂	唐澤昌宏氏（国立工芸館長／本展監修者）	115人
作品ビデオトーク [対面のギャラリートークから変更]	8月15日（土）	講堂	隠崎隆一氏（本展出品作家）	33人
連続講座1「源流としての備前焼」 [対面のギャラリートークから変更]	8月29日（土）	展示説明室	伊藤嘉章（総長）	56人
連続講座2「近代の陶芸家と備前」 [対面のギャラリートークから変更]	9月5日（土）	展示説明室	佐藤一信（副館長）	56人
連続講座3「現代の備前焼」 [対面のギャラリートークから変更]	9月19日（土）	展示説明室	入澤聖明（学芸員）	46人
ワークショップ 「炎で描く抜き絵の世界」 ※詳細は39頁を参照	9月20日（日）	展示説明室 陶芸館	岩渕 寛（陶芸指導員） 入澤聖明（学芸員）	24人

###### ①-2 特別展「YAYOI・モダンデザイン -ニッポンの美、ここに始まる-」

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
記念対談「弥生の美を語る」	10月18日（日）	講堂	松木武彦氏（国立歴史民俗博物館教授）、 橋本麻里氏（永青文庫副館長）	126人
考古学セミナー「あいちの考古学2020」 第1日／プレゼンテーション、ポスターセッション、YAYOI バザール	12月5日（土）	講堂 講堂ホール	※詳細は5頁を参照	160人
考古学セミナー「あいちの考古学2020」 第2日／記念講演、シンポジウム、 ポスターセッション、YAYOI バザール	12月6日（日）	講堂 講堂ホール	※詳細は6頁を参照	200人
連続講座「YAYOI デザインを語る」1 「弥生のかたち」	11月14日（土）	講堂	樋上 昇（愛知県埋蔵文化財センター主任専門員）	75人
連続講座「YAYOI デザインを語る」2 「弥生の紋様」	11月28日（土）	講堂		65人
ワークショップ「弥生土器を作ろう」 (各回ともに同内容) ※詳細は40頁を参照	10月25日（日）	陶芸館	岩渕 寛（陶芸指導員） 小川裕紀（主任学芸員）	16人
	11月29日（日）			22人
	11月29日（日）			13人
ワークショップ 「ファッション体験・なりきり弥生人」	10月31日（土） 11月1日（日） [コロナ関連中止]	—	金田あおい氏（藍寧舎）	—

①-3 企画展「異才 辻晋堂の陶彫 –「陶芸であらざる」の造形から–」

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
記念講演会1 「陶彫・制作の背景と芸術性」	4月11日(土) [コロナ関連中止]	—	三谷 巍氏(フリーキュレーター/元鳥取県立博物館学芸員)	—
記念講演会2 「彫刻と陶芸、デザイン」	5月16日(土) [コロナ関連中止]	—	菊地敦己氏(グラフィックデザイナー)	—
学芸員・入澤による スライドレクチャ	5月10日(日) [コロナ関連中止]	—	入澤聖明(学芸員)	—
学芸員・入澤による ギャラリートーク	4月12日(日) 4月26日(日) 5月3日(日) 5月24日(日) [コロナ関連中止]	—	入澤聖明(学芸員)	—
ワークショップ 「似顔彫刻—写真から陶彫へ」 ※詳細は39頁を参照	4月25日(土) [コロナ関連中止]	—	岩渕 寛(陶芸指導員) 入澤聖明(学芸員)	—

①-4 企画展「日本陶磁の源・陶邑窯 –猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁–」

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数	
スペシャル講座1 「陶邑窯研究の最前線」	2月6日(土)	講堂	尾崎綾亮氏(愛知県埋蔵文化財調査センター)	75人	
スペシャル講座2 「陶邑窯衰退以後の須恵器」	2月20日(土)	講堂	稲本悠一氏((公財)兵庫県まちづくり技術センター)	63人	
学芸員・大西による 連続講座 「古代史×陶邑窯」	「古墳時代の産業革命—陶邑窯誕生!」	1月10日(日)	本館 玄関ロビー	73人	
	「海を渡った最新技術、大和政権の傘下に至る」	1月24日(日)		58人	
	「飛鳥時代の食器革命」	2月21日(日)		75人	
	「奈良時代の造形美—陶邑窯最後の隆盛」	3月7日(日)		45人	
	「古代やきもの史の両雄—陶邑窯と猿投窯」	3月21日(日)		60人	
学芸員・大西と一緒に 古代のやきものに 触れよう!	「世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の時代の器」	1月17日(日)	本館 玄関ロビー	大西 遼(学芸員) 宮川菜々子(同)	23人
	「聖徳太子・天武天皇の時代の器」	1月31日(日)		大西 遼(学芸員) 井上隼多(同)	25人
	「聖武天皇の時代の器」	2月28日(日)		大西 遼(学芸員)	23人
	「古代やきもの史—土器・陶邑・猿投」	3月14日(日)		大西 遼(学芸員) 井上隼多(同)	39人
学芸員・井上隼多による最前線研究講座「最新技術で陶邑窯・猿投窯の須恵器に挑む!!」	2月14日(日)	講堂	井上隼多(学芸員)	48人	
連続講座「甕から亀へ」1 「古代のやきものを見る、カメ(甕)を作る」	1月23日(土)	本館会議室、陶芸館	大西 遼(学芸員) 宮川菜々子(同)	18人	
連続講座「甕から亀へ」2 「カメ(甕)からカメ(亀)を作る」 ※「甕から亀へ」詳細は40頁を参照	1月30日(土)	陶芸館	岩渕 寛(陶芸指導員) 宮下 陽(同)	18人	

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数	
学芸員・大西 と行く 古代窯跡	「長久手三ヶ峯窯＋南 山 8・9 号窯」	1 月 16 日 (土)	長久手市、 当館古窯館	大西 遼 (学芸員) 井上隼多 (同)	7 人
	「日進市香久山古窯＋ 市道 1 号窯」	2 月 26 日 (金)	日進市、 当館敷地内		15 人

### ①-5 テーマ展「癒しのノベルティ楽園(パラダイス)」

行事名	月 日	会 場	講 師	投稿者数
ノベルティ大喜利 (SNS 投稿募集)	7 月 4 日 (土) ～8 月 2 日 (日)	本館第 1・ 第 2 展示室 SNS 上	—	129 件

### ①-6 南館テーマ展

例年、南館 1 階展示室で開催するテーマ展に合わせて、外部講師による公開制作などのワークショップを実施してきた。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

### ② ボランティア研修 (公開講座)

「愛知県陶磁美術館ボランティア」(後掲)の活動を支援するため、主に当館学芸員が講師として毎月 1 回の研修会を開催している。また、県民の学習機会を拡大するため、受講者を当館ボランティアに限定せず、公開講座として実施してきた。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修は一部日程のみを行い、一般への公開講座としては実施しなかった。

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
展示体験論—見える 見る 魅せる	7 月 22 日 (水)	講堂	伊藤嘉章 (総長)	28 人
情報交換会	12 月 18 日 (金)	講堂	学芸課	25 人

### ③ はじめての陶磁美術館

より身近で、多角的な視点から焼き物を紹介し、当館への来館者層を拡大するため、例年様々なテーマで講演会や見学会などを開催してきた。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

## (2) 教育講座 (館外)

### ① 県政お届け講座

愛知県広報広聴課が広報・受付窓口を行っている「県政お届け講座」のうち、陶磁美術館が担当する講座「もっと知りたい! 愛知のやきもの」について実施した。

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
瀬戸市立特別支援学校高等部授業	10 月 14 日 (水)	瀬戸市立特 別支援学校 光陵校舎	小川裕紀 (主任学芸員)	5 人

## ② ワークショップ等（アウトリーチ）

例年、イオンモール長久手と連携して出張陶芸体験イベント等を実施している。  
本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

## (3) 子ども向け事業

### ① 愛知県児童総合センター連携実施プログラム

当館では、子どもと大人が児童館と美術館を自在に行き来し、アートを通じてともにのびのびと育つことを目的に愛知県児童総合センターと連携プログラムを行っている。

例年は「土どろウォーキング」「あなをほる」「土をやく」「ベビーカートツアー」を開催しているが、本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、下記のみを人数制限の上、実施した。

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
「土をやく」	11月8日（日）	愛知県児童総合センター	佐藤一信（副館長）	10人
	12月6日（日）			18人
	12月13日（日）			16人

## (4) 学校教育との連携事業

当館の人材、資料、施設などを活用し、小中学校、大学などの教育活動を支援し連携を図った。

### ① 常設展の開催

「愛知のやきもの「今」」・「愛知のやきもの1万年」（11～12頁参照）

### ② 各種教育プログラムの実施

#### ②-1 スクール・プログラム（見学コース）

行事名	内 容
自由見学コース	学校団体のオリジナルプランで自由に見学した。
学芸員ガイダンス付コース	事前申込のあった学校団体に対し、学芸員がガイダンス・展示説明等を行った。
特別企画コース	学校団体との事前協議に基づき、学芸員が展示室・復元古窯・古窯館等の現地説明を行った。

\*本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示室での説明は行わなかった。

#### ②-2 スクール・プログラム（その他）

##### 「学校出前講座」

焼き物を通して我が国と地域の歴史と文化、芸術の理解を深め、親しみや誇り、美を感じ取る心を育むことをねらいとし、例年は当館保有の陶磁資料等を実物教材として用い、県内小学校数校において実施校教員と当館学芸員が連携して、学級毎に体験型の授業を実施している。

本年度は当初計画では、「やきものの鑑賞」（5・6年図画工作科「鑑賞」等関連）と「愛知のやきもの」（4年社会科「県内の特色ある地域」の「伝統的な工業」関連）について実施校募集を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、募集を無期延期した。ただし、特に実施希望のあった下記の学校については、感染症の流行状況及び対策について協議の上実施した。

[愛知のやきもの] 4年社会科「県内の特色ある地域」の「伝統的な工業」関連

月 日	参 加 校	参加者数
令和3年2月4日(木)	名古屋市立東築地小学校 第4学年2学級	69人

### 「中学生等職場体験」

県内中学校等の職場体験学習を支援・協力するため、例年は申し出のあった学校の生徒について、陶芸館・展示館で2～3日間の体験実習を行っている。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各学校が職場体験学習を中止したため、申出はなかった。

## ②-3 カレッジ・プログラム

### 「博物館実習」

大学における学芸員課程の教学に協力するため、申し出のあった大学・学生について、当館学芸員が館内で実習指導を行っている。例年は計6日の実習を一括実施しているが、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実習生を2グループに分割し、日数を半減、時間を短縮して実施した。

参加大学：各1名、計7名

A班 愛知県立芸術大学・愛知県立大学・愛知淑徳大学・愛知大学

B班 中京大学・中部大学・東京大学

月 日	実 習 内 容
7月23日(木)	A班：事業紹介、施設見学、陶磁取扱い実習、広報宣伝概説、企画展概説
7月24日(金)	B班：事業紹介、施設見学、陶磁取扱い実習、広報宣伝概説、企画展概説
7月25日(土)	A班：資料調査(近世陶磁)、資料調査(古代陶磁)
7月26日(日)	B班：資料調査(近世陶磁)、資料調査(古代陶磁)
7月27日(月)	A班：展示作業、資料撮影、広報宣伝業務、講評
7月27日(月)	B班：広報宣伝業務、展示作業、資料撮影、講評

※各日とも時間は午前9時45分～午後4時15分

### 「愛知県立大学講義」

当館と愛知県立大学との連携協定に基づき、同大における学芸員課程の教学に協力するため、「博物館教育論」(2単位)について、当館職員が講義を行っている。例年は4月から7月にかけて実施するが、本年度は県立大学の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に則り、5月と6月の講義は遠隔授業、7月と8月は大学教室での対面授業として実施した。

講師：小川裕紀(主任学芸員)(7月8日以外)、岩渕 寛(陶芸指導員)(7月8日のみ)

最終履修登録者：20人

月 日	講 義 内 容
5月13日(水)	教育学概論Ⅰ－教育学は「学習」をどのようにとらえてきたか?－
5月20日(水)	教育学概論Ⅱ－社会における教育の役割とは何か?－
5月27日(水)	博物館教育概論－博物館が行う教育普及活動の特質とは?－
6月3日(水)	博物館教育職制度－法制度における博物館と教育の関係は?－
6月10日(水)	事業の計画と評価－なぜ、その事業を実施するのか?－
6月17日(水)	博物館体験論－人はなぜ、ミュージアムショップでおみやげを買うのか?－
6月24日(水)	博物館教育活動の実際－多様な教育普及事業をどう把握するのか?－
7月1日(水)	ワークシート－ミュージアムにおけるアクティブ・ラーニングのデザインとは?－
7月8日(水)	ワークショップ－ケーススタディ・陶磁美術館陶芸館－
7月15日(水)	博学連携Ⅰ－博物館と学校は、どのように「連携」するのか?－
7月22日(水)	博学連携Ⅱ－ケーススタディ・陶磁美術館と小学校社会科－

月 日	講 義 内 容
7月29日(水)	博物館における研究と展示・教育－ケーススタディ・陶磁美術館と小学校図工科－
8月5日(水)	博物館教育の最新動向－「教育普及」現場の現状と行く末は?－

※各回とも第1時限（午前8時50分～10時20分）

### 「愛知県立芸術大学講義」

例年、大学における陶磁の教学・研究に協力するため、当館見学実習や学内講義を行っている。  
本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施しなかった。

### 「愛知県陶磁美術館大学等パートナーシップ」事業

大学生等に陶磁文化に親しみ、当館が行う事業への理解を深めてもらうことを目的に平成23年12月から開始した。展覧会见学や茶室等の施設を授業で活用するなどの利用がある。

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加大学等は、当館を利用した研究活動等の実施が可能となる。</li> <li>参加大学等の学生や教職員は、大学等が観覧料を後払いで負担することで当館の展覧会を自由に観覧することができる。</li> </ul>
参加大学等	愛知医科大学、愛知学院大学、愛知教育大学、愛知県立芸術大学、愛知県立大学、愛知工業大学、金城学院大学、中京大学、中部大学、東海学園大学、名古屋外国語大学、名古屋学院大学、名古屋学芸大学、名古屋経営短期大学、名古屋工業大学、名古屋産業大学、名古屋造形大学、名城大学、愛知高等学校、名城大学附属高等学校 計20大学等（令和3年3月31日現在）
利用者数	学生260人 教職員53人 計313人

### (5) ボランティア活動

県民に広く生涯学習の場を提供するとともに、観覧者への学習活動を支援するため、「愛知県陶磁美術館ボランティア」を設置している。（令和3年3月31日現在）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館者への応接を行う展示解説、南館、ガイドボランティアは、本年度は活動を休止した。来館者への応接を行わない発送及び環境整備ボランティアは、2年度当初は活動を休止したが、前者は7月から、後者は6月から活動を再開した。

種別	概要	活動日	研 修	人数	設立年
展示解説ボランティア	本館2階常設展「日本と世界のやきもの」の展示解説。	開館日全て ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため活動休止	・7月22日(水) ・12月18日(金) ※詳細は26頁を参照	40人	平成11年
南館ボランティア	南館常設展「もっと伝えたい 愛知のやきもの」の展示室前で実物教材による愛知のやきもの魅力を伝える。	毎月第2、4日曜日の午後 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため活動休止	同上	12人	平成22年
ガイドボランティア	本館入口、受付付近に配置し、当館の見どころをはじめ、原料などを用いやきもの魅力をガイドする。	毎月第1、3日曜日 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため活動休止	同上	19人	平成23年
発送等ボランティア	広報のための郵便物発送等（資料等の帳合い、梱包、発送作業）の補助。	主に月2回程度、火曜日の午前 ※7月から活動再開	同上	18人	平成23年
環境整備ボランティア	茶畑などの除草、施肥作業を行う。	主に5月～2月の月1回、月曜日の午前 ※6月から活動再開	同上	22人	平成29年
延べ人数				111人	

## (6) 他団体との連携活動

### ① 広域連携

#### ①-1 陶磁ネットワーク会議

公立の陶磁専門館がネットワークを組み、協働することを目的として平成20年に設立した。第13回会議を兵庫陶芸美術館で開催し、「新型コロナウイルス禍の中の美術館」の意見交換を行った。

月 日	会 場	出 席 館 (加盟館全館出席)
11月11日(水)、 11月12日(木)	兵庫陶芸美術館	愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、岐阜県現代陶芸美術館、佐賀県立九州陶磁文化館、滋賀県立陶芸の森、兵庫陶芸美術館、福井県陶芸館、山口県立萩美術館・浦上記念館

#### ①-2 愛知県博物館協会

愛知県内に所在する博物館施設が、相互の連絡協力を密にし、事業の振興を図ることを目的として昭和39年に設立された。令和2年4月現在の加盟館は、計121館である。

本年度は、当館長は理事、当館は理事館として在籍。当館学芸員が実行委員として実行委員会に参加し、非常対策訓練を担当した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、会議の多くが書面開催またはオンライン開催となった。愛知県博物館等職員研修会、協会報の発行などは実施し、東海三県博物館協会研究交流会(担当:愛知県博物館協会)、部門別研修会は中止となった。

行 事 名	日程/会場(開催形式)	出 席 館/概 要
総会	8月18日(火) ~9月8日(火) /書面開催	会員121館のうち、90館(書面提出)
理事会	7月30日(木) ~8月11日(火) /書面開催	会長館:名古屋市科学館、副館長館:トヨタ博物館、理事館(13館):一宮市博物館、熱田神宮宝物館、岡崎市美術博物館、あま市美和歴史民俗資料館、昭和美術館、刈谷市歴史博物館、知多市歴史民俗博物館、豊田市郷土資料館、豊橋市美術博物館、名古屋市博物館、博物館明治村、新城市設楽原歴史資料館、愛知県美術館、監事館(2館):徳川美術館、当館。
実行委員会	10月16日(金) /名古屋市科学館 令和3年1月26日(火) /熱田神宮宝物館 令和3年3月26日(金) /名古屋市科学館 (オンライン併用)	会長館、副会長館及び理事館、監事館より各1名の実行委員が参加して、協会の活動内容等を検討し、実務を分担している。なお、会長館においては、実行委員及び事務担当者を複数員おいて事務局としての実務も担当している。本年度、当館は他館とともに災害対策訓練を担当した。
災害対策訓練	令和3年1月21日(金) /オンライン開催 令和3年3月4日(木) /オンライン開催 令和3年3月26日(金) /名古屋市科学館	災害発生時における支援活動要領に基づく災害対策訓練に関して、担当館:名古屋市科学館・トヨタ博物館・愛知県美術館・名古屋市博物館及び当館が、非常連絡の実施方法、システム等について検討した。 検討中のシステムの無料トライアルを用いた、実行委員解災害対策班による非常連絡訓練を実施。なお、例年12月に実施している、全加盟館による連絡訓練は中止した。
愛知県博物館等職員研修会	令和3年3月12日(木) /名古屋市美術館 名古屋市科学館	「コロナ禍での博物館活動」をテーマとした事例報告と、科学館の視察を実施。当館田畑学芸員が事例報告の一つとして当館活動について報告した(詳細は21頁参照)。

#### ①-3 「愛知やきものヒストリー2020」

平成28年度から、愛知のやきものを扱う複数館(参加20館)が協力し、来館者に対して愛知のやきものに親しむ機会を提供するため、共通テーマを設定した展示作品紹介とやきものスタンプラリー(景品付)を開催してきた。

本年度は7月11日(土)から9月6日(日)にかけて、「やきものの使い方」をテーマとして開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

## ② 地域連携

### ②-1 特定非営利活動法人やきもの文化と芸術振興協会との連携事業

特定非営利活動法人やきもの文化と芸術振興協会が当館で諸事業を実施した。

#### 「やきもの大学」

やきもの文化に対する社会一般の理解・知識を深めるため、「やきもの」の歴史や作り方、鑑賞方法、使い方などを紹介する講座を、会員及び一般を対象に開催している。

当初は4月から9月にかけて開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、下記日程へ延期して実施した。

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
桃山の茶陶1「喫茶の碗」	9月27日(日)	当館講堂	伊藤嘉章(総長)	38人
桃山の茶陶2「懐石の器」	11月8日(日)	当館講堂	伊藤嘉章(総長)	38人
桃山の茶陶3「織部とは」	12月13日(日)	当館講堂	伊藤嘉章(総長)	32人

#### 「茶摘みと茶会体験」

例年は、当館敷地内の茶畑「愛陶茶園」において、当館と特定非営利活動法人やきもの文化と芸術振興協会により、新茶の収穫、煎茶点前イベントを開催している。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

#### 「愛陶茶会」

例年は「愛陶茶園」で収穫した茶葉を、西尾市内で抹茶として製茶し、当館と特定非営利活動法人やきもの文化と芸術振興協会との協働により開催している。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

### ②-2 カルチャーセンター協力講座

行事名	月 日	会 場	講 師	参加者数
「異才 辻晋堂の陶彫」展 によせて[コロナ関連中止]	5月12日(火)	朝日カルチャーセンター・名古屋	入澤聖明(学芸員)	—
	5月19日(火)	当館1階展示室		—
「六古窯から日本陶磁史を 見渡す」	9月8日(火)	朝日カルチャーセンター・名古屋	伊藤嘉章(総長)	13人
	9月15日(火)	当館展示室		13人
「YAYOI・モダンデザイン」 展を読み解く	10月20日(火)	中日文化センター・栄	樋上 昇(愛知県埋蔵文化財センター)	8人
	11月17日(火)	当館第1展示室	小川裕紀(主任学芸員)	8人
「中国四千年の陶磁史を概 観—考古の遺物や煎茶文化」	11月10日(火)	朝日カルチャーセンター・名古屋	田畑 潤(学芸員)	9人
	11月17日(火)	当館2階展示室		8人

### ②-3 体感！しだみ古墳群ミュージアムとの協同企画「お庭に埴輪プロジェクト」

体感！しだみ古墳群ミュージアムから、同館を象徴する埴輪に関連したワークショップへの協力打診を受けて企画した協同企画。令和元年度に引き続き、両施設の人員やネットワークを生かした企画として実施した。

※詳細は41頁を参照

行事名	月日	会場	主催	協力	参加者数
「埴輪と焼物の歴史を学ぼう！」	令和3年 1月24日(日)	当館常設展示室、古窯館、陶芸館ほか	体感! しだみ古墳群 ミュージアム	当館	17人
「埴輪のカタチを作ろう！」	令和3年 2月7日(日)	体感!しだみ古墳群ミュージアム			17人
「ガーデニングを学び埴輪に色づけをしよう！」	令和3年 3月14日(日)	体感!しだみ古墳群ミュージアム			17人

## ②-4 イオンモール長久手との協同企画「ラリーキャンペーン」

例年、出張陶芸体験イベント等で協同企画を行っているイオンモール長久手から、リニモ周辺の商業施設及び文化施設を繋ぐラリーキャンペーンへの協力打診を受けて企画した協同企画。

行事名	月日	会場	主催	協力	参加者数
「リニモ沿線謎解きスタンプラリー」	8月8日(土) ～8月31日(月)	イオンモール長久手、リニモ藤が丘駅、ロイヤルホームセンター長久手、愛・地球博記念公園、当館、長久手市郷土資料館	イオンモール 長久手	各施設	802人
「リニモ沿線ウインタースタンプラリー」	12月18日(金) ～12月27日(日)	イオンモール長久手、リニモ藤が丘駅、ロイヤルホームセンター長久手、IKEA長久手、愛・地球博記念公園、当館、長久手市郷土資料館			325人

## ②-5 瀬戸市立幡山中学校「クリスマスコンサート」

幡山中学校区内に立地する当館と同校区との交流事業として、例年は同校吹奏楽部の演奏会を当館展示説明室において12月の第三日曜日に行ってきた。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

## ③ 県行政機関連携

### ③-1 愛知県庁本庁舎公開イベント正庁展示

重要文化財愛知県庁本庁舎では、例年11月3日に公開イベントを行っており、6階正庁において当館のミニ展示を開催してきた。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベントが開催されなかった。

### ③-2 あいち海上の森センターとの連携講座

行事名	月日	会場	講師	参加者数	
海上の森アカデミー 里山暮らしコース 野焼き	制作と 展示見学	12月19日(土)	当館	佐藤一信(副館長)	10人
	焼成	令和3年1月10日 (日)～11日(月)	海上の森 サテライト会場	佐藤一信(副館長)	延べ 20人

### ③-3 第9回愛知県茶会への協力

愛知県茶会とは、お茶の消費拡大及び茶文化の振興を図るために愛知県が主催する茶会である。知事が席主をつとめ、農林水産部（園芸農産課）が担当している。

招待客への呈茶に供するため、瀬戸陶芸協会から15点、常滑陶芸作家協会から16点の茶碗を県が借用した。借用にあたり、当館が両協会との調整を行った。

行事名	月 日	会 場	主 催	後 援	協 力	参加者数
愛知県茶会	令和3年 3月20日(土)	愛知県公館庭園 計6席	愛知県	愛知県茶業 連合会	表千家 同門会	120人

### (7) ギャラリーの貸出し

#### ① 令和2年度公益財団法人瀬戸市文化振興財団

##### 企画展「磁器生産の成立と展開 -江戸後期の瀬戸窯と美濃窯-」

会期	10月17日(土)～12月6日(日)				
開催日数	44日間				
会場	本館1階ギャラリー(第8展示室)				
共催	当館				
展示点数	225点				
歴史講演会	10月31日(土)	「都市江戸における磁器需要と瀬戸・美濃窯—磁器の販売戦略—」	堀内秀樹氏(東京大学埋蔵文化財調査室)	60人	
展示説明会	10月31日(土)	「展覧会ワンポイントレクチャー」	金子健一氏((公財)瀬戸市文化振興財団)	25人	
	11月15日(日)			28人	
入場者数	2,934人				

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教育・普及事業は会場定員を半数にして開催した。

#### ② 公益社団法人日本工芸会東海支部

##### 「東海伝統工芸の今 -第51回東海伝統工芸展より-」

会期	令和3年2月20日(土)～2月28日(日)				
開催日数	8日間				
会場	本館1階ギャラリー(第8展示室)				
共催	当館				
展示点数	71点				
ギャラリー トーク	令和3年2月21日(日)		出品作家と入澤聖明(学芸員)	60人	
	令和3年2月23日(火・祝)		出品作家と伊藤嘉章(総長)	48人	
研究会	令和3年2月28日(日)		出品作家と伊藤嘉章(総長)	29人	
入場者数	1,005人				

## 5 陶芸館

陶芸館では陶芸指導員の指導により、利用者が希望に応じて自由に作陶体験できる陶芸実習（通年）や陶芸館の自主事業として陶芸教室（秋季～冬季）、復元古窯焼成に伴うイベント、特別展・企画展の内容に則したワークショップなどを実施した。

なお、利用者が制作（成形・絵付）した作品の乾燥・素焼・施釉・本焼については陶芸指導員（本項では、非常勤職員を含む）が当館内の窯炉などを用いて行った。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月11日（土）から5月31日（日）まで臨時休館した。6月2日（火）、利用定員を半数とし、全ての利用を事前予約制として再開した。

### （1）通年事業

#### ○ 実習内容

作陶：利用者の希望と経験により、自由に制作（成形）を行う（作品の大きさに制限あり）。

絵付：予め制作された素焼きの皿・湯呑に絵付を行う。

#### ○ 説明及び指導

作陶の初心者を対象とした説明会を午前9時30分から午後2時30分までの毎時0分・30分に開催した。

また、陶芸指導員が実習室に常時在室し、利用者の要望に応じて指導を行った。

#### ○ 利用者定員

作陶（電動ロクロを除く）・絵付：164人、電動ロクロ：18人

\*6月2日（火）から、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため作陶82人、電動ロクロ10人

#### ○ 利用時間

午前9時30分から午後4時30分まで

（受付開始：午前9時15分、初心者向け最終説明会：午後2時30分）

#### ○ インターネットでの事前予約

外部サイト「じゃらん・遊び体験」を用いて、午前10時、午後1時開始時間の予約を受付けた。

（7月から令和3年3月まで、陶芸館売店（船井アソシエイツ）にて受付）

#### ○ 利用料金

（令和3年3月31日現在）

区分	内容	料金	
		一般	中学生以下
実習室 使用料	2時間まで	240円	120円
	4時間まで	480円	240円
	7時間まで	720円	360円
焼成料	作陶（粘土1kg毎）	300円	
	絵付（1個毎）	300円	

\*粘土や絵付素材などについては、陶芸館内の売店で別途販売。

## (2) 定例事業

### ① 第54回陶芸教室

やきもの作りの技術を様々な角度から習得できるように、当館の陶芸指導員、非常勤職員が個々の経験を活かした多様なコースを担当し、専門性の高い講座を開設した。少人数制の形式をとることにより、基礎から丁寧に隅々まで心の行き届いた教室を行った。

なお、例年実施している特別造形講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休講とした。

コース	講師	内容	月日	時間	定員	参加者数	受講料
基礎	日野千春 (陶芸指導員)	やきもの作りが初めての方、初心者の方が対象。紐作り、タタラ作りなど、成形技法の基礎を学ぶ。	11.13/11.20/ 11.27/12.4/ 12.11/12.18/ 12.25	午前	20人	2人	6,640円
				午後	20人	5人	
ろくろ 上級者	富田二香 (陶芸指導員)	赤土を使用して40cm程度の大皿を制作。素焼き後、下絵付を行う。	令和3.1.7/ 1.14/1.21/ 1/28/2.4/ 2.18/2.25	午前	10人	9人	7,040円
				午後	10人	10人	
ろくろ 初心者	吉田庄吾 (陶芸指導員)	電動ロクロでの制作の初心者、未経験者が対象。道具や粘土の使い方を学びながら茶碗程度の大きさの器を制作。	11.11/11.18/ 11.25/12.2/ 12.9/12.16/ 12.23	午前	10人	10人	4,040円
				午後	10人	10人	
練込み	近藤ひとみ (陶芸指導員)	練込み技法による装飾技法を習得したい方が対象。組亀甲模様の六角皿を制作。	11.12/11.19/ 11.26/12.3/ 12.10/12.17/ 12.24	午前	15人	12人	4,730円
				午後	15人	14人	
陶の造形	東直生 (陶芸指導員)	「注ぐ」をテーマに動物のかたちをしたポットを制作。	2.12/2.19/ 2.26/3.5/ 3.12/3.19/ 3.26	午前	15人	6人	4,040円
				午後	15人	13人	
土曜日の 初級	岩渕寛 (陶芸指導員)	平日に時間が取れない方のための初級コース。	11.7/12.5/ 令和3.1.9/ 2.6/3.6	午前	15人	12人	4,730円
				午後	15人	9人	
特別造形 講座 [コロナ関 連中止]	加藤清之氏 (陶芸家)	花器制作 生花 作品鑑賞・喫茶	—	終日	—	—	—

### ② 復元古窯焼成

当館では、復元古窯2基(室町時代の火窯と江戸時代の連房式登窯)の窯体保存と学術研究の観点から試験焼成を行ってきた。令和2年度は連房式登窯を使用し、陶芸作家で当館の運営委員・資料委員でもある加藤清之氏の指導により、桃山時代に焼かれていた「織部」の釉薬、陶土、燃料、焼成方法をできる限り厳密に再現し、約500点の試験体(作品)を焼成した。

指導：加藤清之氏(陶芸家、当館運営委員・資料委員)

担当：岩渕寛(陶芸指導員) 大西遼(学芸員) 入澤聖明(学芸員)

富田二香(陶芸指導員) 吉田庄吾(陶芸指導員)

内容	実施日	参加者数
勉強会	10月4日(日)	83人
作陶、仕上げ	10月16日(金)～18日(日)	125人
絵付、施釉	10月30日(金)～11月1日(日)	125人
窯入れ	11月2日(月)～11月5日(木)	53人

焼成	11月14日(土)～16日(月)	257人
窯起し	11月23日(月・祝日)	46人

\*焼成スタッフ(館職員除く):延べ40人

## ②-1 関連催事 在宅陶芸「おうちで織部」

復元古窯焼成の関連催事として、在宅陶芸「おうちで織部」を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとりつつ、復元古窯焼成「織部を焼こう」に参加できる新たな入口の一つとして、いわゆる「在宅」でやきものづくりを体験。コロナ禍以後の時代の新たな体験方法の一つとして実験的な意味合いも含んだ。

参加者は、館公式YouTubeチャンネルにて動画を見ることで、「織部」の制作技法などの知識や情報を得ることができ、動画を手掛かりに「在宅」でのやきもの制作を体験した。

日時:9月4日(金)～公開

担当:岩淵 寛(陶芸指導員)

参加人数:10名

## ②-2 関連催事 動画配信「織部を焼こう」

「織部を焼こう」で当館が積み重ねてきた経験をYouTubeにて提供し、「在宅」で「織部」を制作することにより、その過程において、「織部」というやきものを参加者自ら、より深く考え、感じていただくことを目的とした。どなたでも視聴が可能なため、多くの方の目に留まることになり、復元古窯焼成の広報という大きな役割も果たした。

日時:8月21日～配信開始

担当:岩淵 寛(陶芸指導員) 大西 遼(学芸員) 入澤聖明(学芸員)

富田二香(陶芸指導員) 吉田庄吾(陶芸指導員)

内容	配信日	再生回数
予告編	8月21日(金)	247
復元古窯焼成とは	9月4日(金)	536
原料	9月11日(金)	713
作陶(向付)	9月18日(金)	910
作陶2(板皿)	9月25日(金)	1763
作陶(こま犬)	10月2日(金)	718
作陶日に向けて	10月9日(金)	461
絵付	10月16日(金)	942
施釉	10月31日(土)	846
特別企画 加藤清之氏 窯の話①	12月24日(木)	140
特別企画 加藤清之氏 窯の話②	12月25日(金)	158

\*再生回数※令和3年5月8日現在



A4 チラシ

### ③ 「ふれあい陶芸」

平成 23 年から陶芸館の活性化のために企画した事業であり、講師と参加者との交流を深めながら楽しくやきものづくりを体験することを目的に開催している。

令和 2 年度は、「こま犬」や、季節に合わせた「陶人形」づくりを当館陶芸指導員が講師となり開催した。土をどのようにかたちにしていくかを講師と一緒に考えていく事で、講師の技術や経験、アイデアが参加者の創作意識を刺激して、他ではできない作品作りの場となった。講師に導かれながらも、個々に個性を持ったユニークな陶人形を制作が行われた。

本年度上半期は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施しなかった。

テーマ	講師	実施日	参加者数
こま犬	岩渕 寛 (陶芸指導員)	5 月 17 日 (日)	[コロナ関連中止]
恐竜を作ろう	東 直生 (陶芸指導員)	7 月 19 日 (日)	[コロナ関連中止]
こま犬	岩渕 寛 (陶芸指導員)	8 月 16 日 (日)	[コロナ関連中止]
薪窯で焼くこま犬	岩渕 寛 (陶芸指導員)	10 月 11 日 (日)	11 人
干支「丑」	東 直生 (陶芸指導員)	11 月 22 日 (日)	20 人
節分「鬼」	東 直生 (陶芸指導員)	12 月 20 日 (日)	10 人
陶雛	近藤ひとみ (陶芸指導員)	1 月 17 日 (日)	13 人
五月人形「兜」	東 直生 (陶芸指導員) 近藤ひとみ (陶芸指導員)	3 月 21 日 (日)	60 人



#### ④ 公開制作「やきものの技法から～を知る」

平成 30 年度から開催している「やきものの技法から～を知る」では、普段あまり目にするのできない特殊な「技法」に焦点を当て、作り手の記憶をたどりながら、公開制作を行っている。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

#### ⑤ 「はじめての陶芸館」

令和 2 年度から、陶芸館の利用促進のため新たに企画された事業。はじめて陶芸館を利用する方の、やきもの作りの入り口となるような講座。簡単な制作方法で、「使える」器づくりをテーマとした。

本年度上半期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

テ ー マ	実 施 日	参加者数
多肉植物のための器	5 月 10 日 (日)	[コロナ関連中止]
アニマルソーブディッシュ	6 月 14 日 (日)	[コロナ関連中止]
土を転がし一輪挿し	7 月 12 日 (日)	[コロナ関連中止]
押し付けはみ出せ落書き印花皿	8 月 9 日 (日)	[コロナ関連中止]
はじまりは抹茶碗	9 月 13 日 (日)	[コロナ関連中止]
薪窯で俺のぐい呑み	10 月 11 日 (日)	[コロナ関連中止]
多肉植物のための器	12 月 13 日 (日)	5 人
押し付けはみ出せ落書き印花皿	1 月 10 日 (日)	39 人
多肉植物のための器	2 月 14 日 (日)	16 人
押し付けはみ出せ落書き印花皿	3 月 7 日 (日)	74 人



A4 チラシ

### (3) 展示連携事業

#### ① ワークショップ「似顔彫刻ー写真から陶彫へー」

企画展「異才 辻晋堂の陶彫「陶芸であらざる」の造形から」の関連催事として計画した。晩年の辻晋堂は、身近な人物や歌舞伎俳優、詩人などを題材とした、遊び心のある造形を手掛けた。それらは一見すると平面的で単純な形態だが、個人の特徴を的確にとらえており、わずかな刻線で描かれた顔は信条の機微を感じさせる。本イベントでは、写真に映った人物を参考にして平面的な形状を組み合わせた「似顔彫刻」づくりに挑戦し、辻の魅力に迫ることをねらった。

日時：4月25日（日）13:00～15:30

担当：入澤聖明（学芸員）、岩渕 寛（陶芸指導員）

定員：20名

会場：本館企画展会場・陶芸館

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館により中止



#### ② 作陶体験「陶芸館にゃんこパラダイス

##### うみゃーこと、猫のお面を作って一言いわせてみてちょ」

テーマ展「癒しのノベルティ楽園」では、様々な動物の「ノベルティ」が展示された。その中から「ねこ」を取り上げ、陶芸館再開後の来館者促進のために「にゃんこパラダイス」と称し、テーマ展への誘導も兼ねた「ねこ」づくりの作陶体験を行った。ノベルティの持つ「表情」に注目し、「今を反映する言葉」を一つ考え、ねこの表情で表現した「ねこのお面」制作した。ノベルティの重要な要素の一つ「彩色」に着目し、「色土の泥」を使って彩色をした。

日時：7月12日（日）9:30～16:30

担当：東 直生（陶芸指導員）

定員：常に40名を超えない範囲で予約受付

参加人数：33名



#### ③ ワークショップ

##### 「炎で描く抜き絵の世界ー牡丹餅の技法からー」

特別展「The 備前」の関連催事として開催した。スライドによる備前の技法解説の後、特別展「The 備前」を観覧し、実際に「牡丹餅」による景色を良く観察した後、陶芸館にて制作を行った。「牡丹餅」の技法を応用した「抜き絵」に挑戦した。板状の素地に、面・点・線で「より土」を使い素地を伏せるようにして模様を描いた。その上から当館の薪窯の焼成後に残った「灰」と、その灰でつくられた「灰釉」をふりかけ焼成すると、「より土」で伏せた部分に「跡」が残り模様が浮かび上がった。

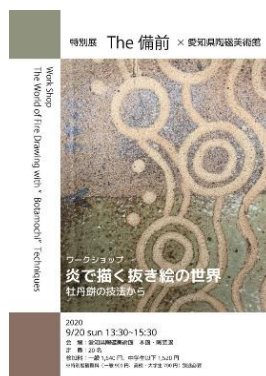
日時：9月20日（日）13:30～15:30

担当：入澤聖明（学芸員）、岩渕 寛（陶芸指導員）

定員：20名

会場：本館1階展示室・陶芸館

参加人数：24名



④ ワークショップ「弥生土器を作ろうーいわゆるパレススタイル土器の制作」

特別展「YAYOI・モダンデザインーニッポンの美、ここに始まるー」教育・普及事業として、「パレススタイル土器」の技法を応用した「弥生土器」作りに挑戦した。小ぶりの土器を作り、櫛描きや刺突の技法で文様を描いた後、当館敷地内で採取した鉄分を多く含んだ土の泥を塗り、乾燥後、焼成(800℃程度)を行った。繊細な模様を纏った赤と白のコントラストが美しい「パレススタイル土器」が完成し、特別展の会期中、本館ロビーにて展示した。また、応募者多数であったため、再募集を行い、開催日を1日(午前・午後の各1回)追加した。

日時：10月25日(日)13:30~15:30、11月29日(日)10:00~正午・13:30~15:30  
 担当：清水美香子(陶芸指導員)、岩渕 寛(陶芸指導員)、小川裕紀(学芸員)  
 定員：15名  
 会場：陶芸館  
 参加人数：1回目16名、2回目35名(午前22名、午後13名)



⑤ 連続講座「甕から亀へー古代のやきものの技でカメを作ろう」

企画展「日本陶磁の源 陶邑窯ー猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁」関連イベントとして開催した。叩き技法によって「甕」を作り、その表裏に現れる叩き目文様に着目しながら自由に「甕」を切り出し、「亀」を制作した。完成した「亀」は、灰釉を塗り、灰を振りかけて還元炎で焼成した。焼きあがった「亀」は陶邑窯展の会期中、本館ロビーにて展示した

担当：大西 遼(学芸員)、宮川菜々子(学芸員)  
 岩渕 寛(陶芸指導員)、宮下 陽(陶芸指導員)  
 定員：20名  
 参加人数：18名

テーマ	内 容	日 時	会 場
古代のやきものを見る・カメ(甕)を作る	器面の表裏に「叩き文」がある古代・中世の陶片を実際に手に取り観察し、その後叩き技法で「甕」を制作	1月23日(土) 10:30~16:00	本館・陶芸館
カメ(甕)からカメ(亀)を作る	「甕」を切り出し、叩き文を活かした「亀」を制作	1月30日(土) 13:30~15:30	陶芸館



#### (4) その他連携事業

##### ① ワークショップ「水と器と手のかたちー粘土を使って器型のオブジェをつくろうー」

現代美術の視点で、粘土を採取すること、それらに直接触れ、自分の手を使って器型のオブジェを制作する中で、生きることに不可欠な水という物質、土という物質、そして自分の身体と身の回りの生活用品との関係を見つめ直す。自分の体との関わりの中で「器」を感じる事で、生命という視点から陶芸の魅力の再発見を促す。

日時：7月26日（日）10:30～15:30

講師：鈴木孝幸氏（現代美術家）

担当：岩渕 寛（陶芸指導員）

定員：15名

会場：陶芸館とその周辺

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

##### ② 愛知県陶磁美術館×体感！しだみ古墳群ミュージアム共同企画

###### 歴史講座 第2回 連続講座「お庭に埴輪プロジェクト」

当館と体感！しだみ古墳群ミュージアムとの共同企画。3回連続講座として開催した。両館の資料や施設、職員が交流しながら、古墳時代のやきものを中心に、陶磁文化を地域の人たちに伝えることを目的とする。

「土の採取」「埴輪の成形」「色づけ」の3工程を3回に渡って体験するプロジェクト。古代の焼物の歴史を学びながら、参加者のオリジナル埴輪を作って、個々の家庭の庭やベランダに飾る企画。第1回は当館にて古墳時代のやきものを中心に当館学芸員とともに鑑賞し、館敷地内にて土を採取し篩にかけるなどし、簡易に精土を行った。第2回は、しだみ古墳群ミュージアムにて当館にて精土した土を使用し、埴輪の制作を行った。テーマは自由とし、参加者は個々にオリジナリティ溢れる埴輪を作り上げた。第3回は当館で採取した土を使用し、制作した埴輪に着色。完成した埴輪は、しだみ古墳群ミュージアムにて焼成を行った。年一回のペースで開催をし、今後も両館の交流を深めていく。

内 容	実 施 日 時	会 場
第1回 埴輪と焼物の歴史を学ぼう！	1月24日（日） 10:00～15:00	当館常設展展示室・古窯館 陶芸館とその周辺
第2回 埴輪のカタチを作ろう！	2月7日（日） 10:00～15:00	体感！しだみ古墳群ミュージアム
第3回 ガーデニングを学び埴輪に色づけをしよう！	3月14日（日） 10:00～15:00	体感！しだみ古墳群ミュージアム

担 当

第1回：服部哲也氏（特定非営利活動法人 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク副理事長）

佐久間真子（学芸員）、大西 遼（同）、岩渕 寛（陶芸指導員）

第2回：服部哲也氏、岩渕 寛、宮下 陽（陶芸指導員）

第3回：天野麻里絵氏（豊田ガーデン花遊館ヘッドガーデナー）、岩渕 寛、宮下 陽

定員：20名

参加人数：17名（付添者を含む）

## 6 広報・宣伝活動のあらまし

当館では、「愛知県陶磁美術館条例」で掲げられた陶磁文化の振興等の目的を達成するため、県内外の多くの人々に館の魅力を県内外の多くの人に伝え、来館を呼び込むべく広報宣伝業務を行っている。

令和2年度は、従来行っている広報宣伝業務に加え、陶磁美術館魅力発信事業を実施し、とくにSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した新たな広報の在り方を探った。

### (1) 陶磁美術館魅力発信事業の実施

令和元年度の根源的問い直しにおいて最大の課題とされた若い世代への当館の認知度向上のための課題を明らかにするとともに、SNSを活用した発信力強化を図ることを目的とし、「陶磁美術館魅力発信事業」を実施した。

本事業においては、①「魅力発信検討会議」を全6回開催して当館SNSを用いての広報活動の課題の整理を行い、その成果を元に②「陶磁美術館SNSアクションプラン」を策定した。これにより、将来にわたって館職員によるSNSを用いた広報活動の安定的な運営とより多くの県内外の住民への情報提供と当館認知度の向上を図ることとした。

#### ① 「魅力発信検討会議」概要

開催日	・9月15日（火）13：30～15：00 「現状把握、魅力・課題のヒアリング」
および	・10月7日（水）13：30～15：00 「他施設の事例調査の共有、館の立ち位置とターゲットの検討」
テーマ	・11月5日（木）13：30～15：00 「SNSビジョンの検討」 ・12月10日（木）13：30～15：00 「SNSアクションプランの仮設定、試験運用開始」 ・令和3年3月17日（水）13：00～14：00 「試験運用結果の分析と検討」 ・令和3年3月17日（水）14：00～15：00 「SNSアクションプランの決定、職員レクチャー」
参加者	・9/15：総長・館長・副館長ほか12名、文化芸術課1名、運営事務局5名 ・10/7～：館職員8名、文化芸術課1名、運営事務局5名
協力	東海テレビプロダクション、広瀬企画

#### ② 「陶磁美術館SNSアクションプラン」概要

構成	・SNSアクションプラン策定にあたり ・ビジョン ・ペルソナ ・発信したい館の魅力 ・SNSの特性と役割 ・#ハッシュタグの考え方 ・運用について：Instagram、Twitter、Facebook、YouTube ・SNS運用ポリシー ・トラブル対処について
----	---

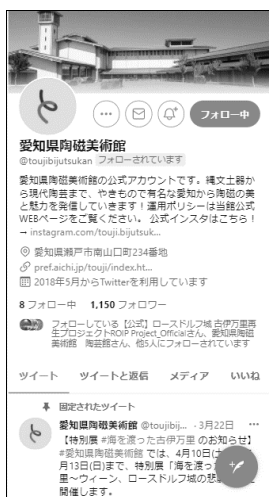
## (2) 陶磁美術館公式 SNS (Twitter・Instagram・Facebook・YouTube) の運営

令和3年1月から、(1)で策定した「陶磁美術館 SNS アクションプラン」に基づき、以下のとおり館公式 SNS を運用している。

### 陶磁美術館公式 SNS の概要

媒体名および アカウント名、開設日	運用体制 (令和3年1月以降)
Twitter @toujibijutsukan 平成30年度	休館日を除く毎日1度投稿を行う。(臨時投稿も可) 館職員24名、文化芸術課1名による交代制。
Instagram @ touji.bijutsukan 平成30年度	3日に1度投稿を行う。(臨時投稿も可) 館職員10名による交代制。
Facebook @ touji.aichi 平成24年度※	Instagramと連動させ同時投稿を行う。
YouTube @aichitouji 平成24年度※	広報宣伝ツールとしてではなく、主に陶芸館事業における動画教材の公開ツールとして活用。

※開設当初は、平成23年度実施の広報委託事業「やきものPR隊」の公式 Facebook および YouTube として運用開始、その後活動終了にともない当館公式へ移行。



(Twitter)



(Instagram)



(Facebook)



(YouTube)

## (3) 広報印刷物の製作および設置依頼

特別展・企画展および教育普及関連のイベントに際し製作した広報印刷物を、県内外の文化関連施設や交通機関に送付し設置依頼している。なお、発送作業は当館発送ボランティアの協力を得て行っている。

### 広報印刷物発送数の目安

種 別	依頼先と件数
企画展・特別展のチラシ・B2 ポスター	主に県内外の文化関連施設：約300件
企画展・特別展のB3ポスター	名古屋市営地下鉄駅構内掲示板：143箇所

企画展・特別展の B2 ポスター	愛知環状鉄道駅構内掲示板：20 箇所 (令和 2 年度は陶邑窯展のみ)
陶芸館のイベント および教育普及関連イベント	主に県内の文化関連施設：約 160 件

#### (4) 館公式 WEB ページの運営

当館の各種事業を広報する主要媒体として、館公式 WEB ページの運営を行っている。現在開催中の展覧会（特別展・企画展・常設展）と教育普及関連イベントの紹介を主とし、開館日・アクセス・観覧料などの基本情報を分かりやすく表示している。また、閲覧者が当館および陶磁文化への理解をより深められるよう、当館コレクション・紀要・学芸員コラム等を掲載している。

平成 30 年度に従来のパソコン向けページに加え、スマートフォンでも快適に閲覧が出来るスマートフォン向けページを増設した。また、館に発行する各種の広報印刷物には、WEB ページへのアクセスが容易になるよう、QR コードを積極的に表示している。

##### ① 館公式 WEB ページの構成

###### ①-1 パソコン向けページ（トップページ）



①-2 スマートフォン向けページ

パソコン向けページとほぼ同様の内容を、スマートフォンでの閲覧に適したレイアウトで表示している。

(トップページ)



## (5) 県広報広聴課経由の広報媒体への出稿

県広報広聴課をはじめ各部局が扱う広報媒体への出稿を積極的に行っている。

種 別	掲載内容
『広報あいち』 県知事記者会見バックボード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月号：辻晋堂展の展示案内</li> <li>・辻晋堂展、The 備前展 (両展示はコロナ関連に差し替えのため掲出取りやめ)</li> <li>・10月19日定例記者会見：YAYOI・モダンデザイン展</li> </ul>
名古屋テレビ『まるまるあいち』	
東海テレビ『村上佳菜子の週刊愛ちっち』 動画配信『県政リポート』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月11日：辻晋堂展の展示紹介および見どころ紹介</li> <li>・令和3年1月20日：復元古窯焼成およびYAYOI・モダンデザイン展の見どころ紹介</li> </ul>
県内ユニー店舗へのB2ポスター掲出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辻晋堂展（臨時休館措置にともない掲出取りやめ）</li> </ul>

## (6) 交通広告等への出稿（有料広告）

名古屋市営地下鉄をはじめ、県内交通機関の広告媒体に広告掲載を行っている。また、愛知県内の美術展情報を網羅した冊子（隔月発行）のナゴヤアートニュース、瀬戸・尾張旭・長久手の各市を放送エリアとするコミュニティFMラジオサンキューへの広告掲載を行っている。

種 別	掲出内容
リニモ駅構内広告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辻晋堂展、ノベルティ楽園展、The 備前展、YAYOI・モダンデザイン展、陶邑窯展のB1ポスターを、藤が丘、長久手古戦場、愛・地球博記念公園、陶磁資料館南、八草の5駅に掲出。</li> </ul>
リニモ車内放送 ナゴヤアートニュース掲載	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶磁資料館南での下車アナウンスの際に、施設情報を放送。</li> <li>・4-5月号：辻晋堂展</li> <li>・6-7月号：ノベルティ楽園展</li> <li>・8-9月号：The 備前展</li> <li>・10-11月号：YAYOI・モダンデザイン展</li> <li>・12-1月号、2-3月号：陶邑窯展</li> </ul>
名古屋市営地下鉄タウンガイドB1ポスター広告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月5日～18日：The 備前展</li> <li>・令和3年1月13日～19日：陶邑窯展</li> </ul>
ラジオサンキュー放送および出演	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辻晋堂展、ノベルティ楽園展、The 備前展、YAYOI・モダンデザイン展、陶邑窯展の展示紹介（毎週水曜日1分枠）</li> <li>・毎月第4木曜日の生放送出演</li> </ul>



(掲出例)  
名古屋市営地下鉄タウンガイドB1ポスター広告  
：陶邑窯展

## 7 事業活性化の取組

### (1) 情報発信の強化

- ① Twitter、Instagram、Facebook 発信の強化（令和2年4月～）  
自動発信から職員による手動発信／発信内容の工夫と発信数の増加  
※SNS では、陶磁美術館コレクションの魅力、企画展・イベントの周知、日々のトピックス等、陶磁美術館を身近に感じられるような情報発信を行っている。
- ② 陶芸館 Twitter 及び Instagram の新設（令和2年5月）
- ③ アートディレクターを招いた魅力発信検討会議の開催（令和2年8月～令和3年3月）

### (2) 関連イベントの実施や民間活力の活用

- ① 陶芸館の粘土等販売業者（行政財産使用許可業者）と連携して作陶体験のインターネット予約（じゃらん）申込みを開始
- ② 近隣の大型商業施設等と連携した「リニモ沿線謎解きスタンプラリー」及び出張陶芸芸体験（令和2年9月）
- ③ 瀬戸いけばな協会との連携による陶器を使った生け花設置（展覧会開会時）、NPO 法人やきもの文化と芸術振興協会との連携によるやきもの文化の普及、「やきもの大学」及び愛陶茶園の管理
- ④ 瀬戸陶芸作家協会、常滑陶芸作家協会との連携による、地下ホールでの地元陶芸作家の作品展示紹介
- ⑤ 愛知県茶会における常滑陶芸作家協会、瀬戸陶芸作家協会との連携（令和3年3月）

### (3) 周辺施設との連携

- ① 愛知県陶磁美術館等パートナーシップ事業の実施（平成23年～）
- ② 愛知県立大学との連携協定締結（平成24年～）
- ③ 県立瀬戸つばき特別支援学校の卒業制作への協力（令和元年～）
- ④ AEL ネット環境学習スタンプラリー」の参加（令和2年9月～令和3年2月）
- ⑤ イオンモール長久手と提携し、イオンモールアプリ会員向け広報と企画展割引を実施（令和2年8月～）
- ⑥ 愛知県労働者福祉基金協会との提携による、ハートフルセンター会員向けの広報と企画展割引を実施（令和2年10月～）

### (4) 来館者サービスの向上

- ① 同一の企画展を再観覧される方向けに、観覧割引制度（リピート割）を導入（令和2年4月～）
- ② 敷地内外の案内表示の改善検討

### (5) 運営経費の見直し等による経費縮減の検討

業務委託契約に係る長期継続契約の導入等、引き続き運営経費の縮減に取り組んでいる。

### (6) 陶磁文化連携情報発信事業

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した。

当初予定事業：「茶摘・喫茶体験」、「謎解きゲーム」、「愛陶茶会」、「いけばなワークショップ」

## 8 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の経緯

日付	曜	国の動向	愛知県の動向	当館の措置
2020/1/6	月	中国 武漢で原因不明の肺炎 厚労省が注意喚起		
2020/1/30	木	新型コロナウイルス感染症対策本部を設置		
2020/2/26	水	イベント中止等要請(文化イベント等について、2週間、中止、延期又は規模縮小等を要請)		館者向けの感染症予防対策をWEB ページ等で案内
2020/2/27	木	国立博物館臨時休館		
2020/2/28	金			講演会「陶土のナゾに迫る」会場収容 100 名を超える規模のため本庁に中止の相談
2020/2/29	土			「文人趣味と煎茶」展 WS(20 名)開催
2020/3/7	土			講演会「陶土のナゾに迫る」(43 名)
2020/3/8	日			「文人趣味と煎茶」展 講座 39 名 呈茶を中止し、マスク着用して開催
2020/3/15	日			「文人趣味と煎茶」展 講座 81 名 呈茶を中止し、マスク着用して開催
2020/4/7	火	「緊急事態宣言」(東京、神奈川、千葉、埼玉、大阪、兵庫、福岡)		来館者向けの感染症予防対策をWEB ページ等で再度案内
2020/4/10	金		「愛知県緊急事態宣言」 「職員の在宅勤務及び時差勤務拡大の実施(通知)」 …4/15～5/31の間、1日ごとの交代勤務を実施	全館休館決定(WEB ページ等で案内)
2020/4/11	土			<b>全館休館(4/11～5/11)</b> 「辻晋堂の陶彫」展借用先に会期延長を打診(～4/13)
2020/4/15	水			在宅勤務の開始(学芸課、総務課 2 グループ交代勤務)、受付員等は出勤(館内作業)
2020/4/16	木	「特別警戒都道府県」に愛知県を含む 6 都道府県を指定		
2020/4/24	金			<b>全館休館の延長</b> (～6/1 WEB ページ等で案内)
2020/5/4	月	「緊急事態宣言」5 月 31 日まで延長		
2020/5/8	金			5/19 再開決定、再開準備のため在宅勤務終了
2020/5/14	木	緊急事態宣言の対象区域解除(愛知県を含む 39 県)		「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」(日博協)(検温・消毒・マスク着用・間隔 2m)
			愛知県独自で「緊急事態措置」を継続(5/31 まで)	
2020/5/15	金			WEB ページ等で美術館(本館、南館、西館)再開、企画展等の会期変更等を案内
2020/5/19	火			<b>展示館(本館、南館、西館)再開</b> 、来館者の連絡先記入(検温は必要な都度実施) 「辻晋堂の陶彫」開幕、開会式中止、イベント中止 新型コロナウイルス対策ガイドラインの策定
2020/5/20	月		「職員の在宅勤務及び時差勤務取組の実施(通知)」	
2020/5/25	月	「緊急事態宣言」解除		「移行期間における都道府県の対応について」3. 催物(イベント等)の開催制限(収容率 50%以内、人数上限 100 人)
2020/5/26	火		愛知県緊急事態宣言の解除及び愛知県新型コロナウイルス感染拡大予防対策指針策定	

		国立博物館段階的再開	
2020/6/2	火		陶芸館再開(原則予約制とする。) レストラン「とうじ」再開
			新型コロナウイルス対策ガイドラインの改定(陶芸館での対策を追加)
2020/6/19	金	都道府県またぐ移動の自粛要請 全国で緩和	
2020/7/4	土		「癒しのノベルティ」展開幕、開会式無し
2020/7/8	水	「7月10日以降における都道府県の対応について」2. 催物の開催制限(収容率50%、収容人数5000人以下)	
2020/7/11	土		新型コロナウイルス対策ガイドラインの改定(陶芸館団体客の受入れ人数を一部緩和)
2020/7/22	水	「Go Toトラベル」キャンペーン始まる	
2020/7/23	木	「8月1日以降における催物の開催制限」通知 …収容人数等の制限維持	
2020/7/29	水		「厳重警戒」通知 …東京への不要不急の移動自粛など
2020/8/6	木		「緊急事態宣言」の発出
2020/8/8	土		「The 備前」展開幕、開会式中止
2020/8/24	月		「緊急事態宣言」の解除
2020/9/11	金	「11月末までの催し物の開催制限等」通知	
2020/9/12	土		「11月末までの催し物の開催制限等」通知(11月末まで、収容率100%以内、収容人数50%or5000人)
2020/9/18	金	「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」改定(11月末まで、収容率100%以内、収容人数50%or5000人)	
			「警戒領域」通知
2020/9/19	土		新型コロナウイルス対策ガイドラインの改定(…収容定員半分程度を維持し、団体等で超える場合は随時、収容定員までの受入れを可能とする。)
2020/10/10	土		「YAYOI」展開幕、開会式開催(90名)
2020/10/13	火	首都圏への不要不急移動自粛の解除	
2020/10/14	水	「愛知県新型コロナウイルス感染症対策推進条例」公布・施行	
2020/10/18	日		記念対談「弥生の美を語る」126名
2020/11/6	金		新型コロナウイルス対策ガイドラインの改定
2020/11/12	木	「12月以降のイベント開催制限のあり方について」(現状維持)	
2020/11/14	土		「YAYOI」展 連続講座開催(75名)
2020/11/14-16			復元古窯焼成(3日間:257名)
2020/11/19	木	知事から「厳重警戒」通知 栄・錦地区の時短・休業要請(11/29から12/18まで)	
2020/11/21	土		茶室「陶翠庵」再開(土日、一部の祝日のみ)
2020/11/26	木	首都圏への不要不急移動の自粛要請	
2020/11/28	土		「YAYOI」展 連続講座開催(65名)
2020/12/1	火	「12月以降のイベント開催制限のあり方について」(展示等 現状維持)	
2020/12/5	土		「あいちの考古学 2020」・YAYOI バザール開催(計161名)
2020/12/6	日		シンポジウム「弥生サミット」・YAYOI バザール開催(計200名)
2020/12/14	月	「Go Toトラベル」停止(東京都、名古屋市、札幌市、大阪市、広島市 12/14～)	
2020/12/15	火		知事から「厳重警戒」通知(エリアの拡大と期間延長) 県全域の時短・休業要請(12/18から1/11まで)
2020/12/23	水	「分科会提言を踏まえた催物の開催制限等の取扱いについて」(2月末まで現状維持) 知事から「厳重警戒」通知 年末年始から1/11まで県内時短・不要不急の行動、県外移動の自粛要請	
2020/12/28	月	「Go Toトラベル」停止(全国 12/28～)	


2021/1/7	木	緊急事態宣言(東京、神奈川、千葉、埼玉 2/7 まで)	
2021/1/9	土		「陶邑窯」展開幕、 <b>開会式中止</b>
2021/1/10	日		「陶邑窯」展 連続講座(73名)
2021/1/13	水	緊急事態宣言(愛知、岐阜、大阪、兵庫、京都、栃木、福岡 2/7 まで)	
		在宅勤務の開始(学芸課、総務課 3 グループ交代勤務)	
2021/1/24	日		「陶邑窯」展 連続講座(58名)
2021/2/1	月	緊急事態宣言 10 都府県(愛知県を含む)は 3/7 まで延長	
2021/2/6	日		「陶邑窯」展 SP 講座(75名)
2021/2/14	日		「陶邑窯」展 連続講座(48名)
2021/2/20	日		「陶邑窯」展 SP 講座(63名)
2021/2/21	日		「陶邑窯」展 連続講座(75名)
2021/2/28	日	「緊急事態宣言」の解除に伴う「 <b>厳重警戒宣言</b> 」及び「 <b>愛知県厳重警戒措置</b> 」の発出、イベントの開催制限(収容率 50%、人数上限 10,000 人、経過措置約 1 ヶ月後上限撤廃検討)	
2021/3/1	日	コロナワクチンを全国に配送(医療従事者)	
2021/3/7	日		「陶邑窯」展 連続講座(45名)
2021/3/21	日	緊急事態宣言解除	
		「警戒領域」に引き下げ	
			「陶邑窯」展 連続講座(60名)

## 愛知県陶磁美術館へご来館の皆様へ


当館は令和 2 年 5 月 19 日(火)から、次のとおり開館いたします

0112-9511511


- 1. 当面は、本館・南館・西館の常設展および企画展のみの開催となります**  
現在開催中の企画展「異才 辻香堂の陶彫」は、会期を令和 2 年 5 月 19 日(火)～6 月 21 日(日)に変更します
- 2. 陶芸館・レストラン「とうじ」・茶室「陶翠庵」は引き続き休館いたします**
- 3. 開館時間や休館日は、通常のとおりです**
  - ・次の方は利用をお控えください  
息苦しさ、強いだるさ、高熱のいずれかの症状がある方  
過去 14 日以内に海外渡航歴のある方
  - ・新型コロナウイルス感染対策のため、お名前、ご住所、お電話番号またはメールアドレスのご記入をお願いしております
  - ・多人数での来館の際は、分散入室などをお願いする場合があります(団体でのご利用の際は事前にご相談ください)




マスクの着用をお願いいたします



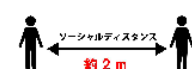
館内での飲食を禁止いたします



展示室内では、作品、展示ケース等にお手を触れないでください



館内で大声での会話はお控えください



ソーシャルディスタンス  
約 2 m  
他の方との距離を約 2 m あげてください  
(展示室が混雑した場合、入場を制限することがあります)

愛知県陶磁美術館  
AICHI CERAMICS MUSEUM

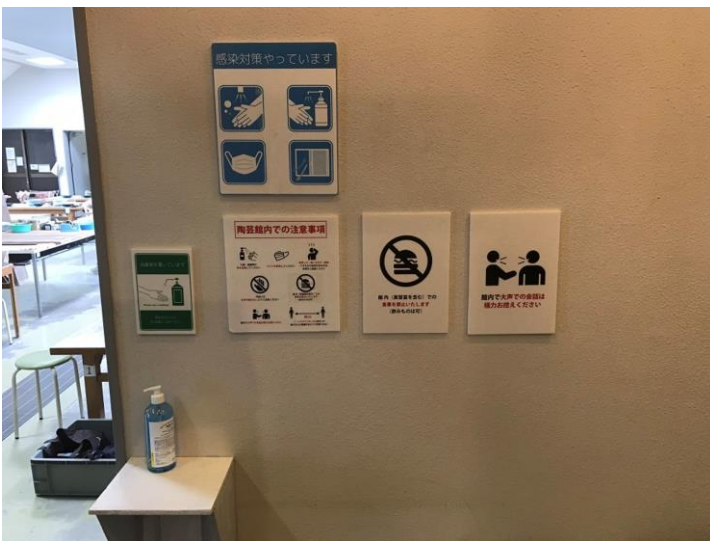
令和 2 年 5 月 19 日(火)展示館再開時  
本館玄関受付等に掲示したパネル



令和2年5月19日(火) 展示館再開  
本館玄関受付



令和2年6月2日(火) 陶芸館再開  
陶芸館玄関受付



令和2年6月2日(火) 陶芸館再開  
第1実習室入口

# 展示室内の注意事項



入館・退館時に  
手を消毒してください



マスク等を着用  
してください



発熱・咳など  
風邪の症状がある方は  
利用をご遠慮ください



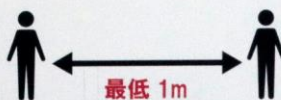
展示ケースやパネル等に  
お手を触れないようご注意ください



館内（展示説明室を除く）での  
飲食を禁止いたします



館内で大声での会話は極力お控えください



ソーシャルディスタンスに気をつけ  
他の方との距離をあけてご鑑賞ください

展示室入口等の掲示パネル。  
県等の対策の変更に則り、  
記載内容を順次更新している。

## 愛知県陶磁美術館へご来館の皆様へ

当館は令和2年5月19日（火）から、次のとおり開館いたします

1. 本館・南館・西館の企画展および常設展、  
陶芸館・レストラン「とうじ」・茶室「陶翠庵」は  
再開しております
2. 陶芸館は当面の間、事前予約制となります。  
ご予約方法の詳細は公式WEBページを御覧ください
3. 開館時間や休館日は、通常のとおりです

- ・次の方は入館をご遠慮ください  
発熱、咳など風邪の症状のある方
- ・新型コロナウイルス感染対策のため、お名前、ご住所、お電話番号  
またはメールアドレスのご記入をお願いしております
- ・多人数での来館の際は、分散入室などをお願いする場合があります  
(団体でのご利用の際は事前にご相談ください)



マスク等の  
着用をお願いします



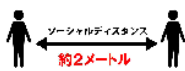
館内での飲食を禁止いたします



展示室内では、作品、展示ケース等  
お手を触れないでください



館内で大声での会話はお控えください



ソーシャルディスタンス  
約2メートル あけてご鑑賞ください  
(展示室が混雑した場合、  
入場を制限することがあります)

愛知県陶磁美術館  
AICHI PREFECTURAL CERAMIC MUSEUM

令和3年3月末現在  
本館玄関受付等に掲示しているパネル

### Ⅲ 参考資料

#### 1 沿革

年	月	日	記	事
昭和 47 年	2 月	10 日	県は、県政 100 年記念事業として基本計画を策定し、具体的建設計画を発表する。	建設予定地を瀬戸市大字山口字南山地内に決定する。
	4 月	1 日	愛知県商工部（工業振興課）に「建設係」を設置し、建設事務に当たる。	
	6 月	20 日	「愛知県陶磁資料館（仮称）建設会議（構成員 30 人）を設置し、第 1 回会議を開催する。	
昭和 48 年	3 月	31 日	瀬戸市大字山口字南山に建設予定地 11 万平方メートル余を買収する。	
	6 月	5 日	基本計画を立案・策定する。	
昭和 50 年	1 月	22 日	進入路・駐車場造成工事に着工する。	
昭和 51 年	1 月	31 日	同上	竣工する。
	12 月	25 日	産業展示棟（南館）建設工事に着工する。	
昭和 52 年	4 月	1 日	愛知県陶磁資料館（本館及び付属施設）建設事務が愛知県商工部（工業振興課）から愛知県教育委員会（文化財課）に所管替えとなる。	
	12 月	23 日	本館及び付属施設建設工事に着工する。	
昭和 53 年	3 月	20 日	産業展示棟（南館）建設工事竣工する。面積 1,620.74 平方メートル。	
	3 月	29 日	愛知県陶磁資料館条例（昭和 53 年 3 月 29 日愛知県条例第 7 号）が公布される。	
	4 月	1 日	愛知県陶磁資料館（産業展示等）の所管事務が愛知県商工部（工業振興課）から愛知県教育委員会（文化財課）に所管替えとなる。	
	5 月	26 日	土地 112,335.20 平方メートルが商工部から所管替えとなる。	
	5 月	26 日	愛知県陶磁資料館規則（昭和 53 年 5 月 26 日愛知県教育委員会規則第 5 号）が公布される。（昭和 53 年 6 月 1 日施行）	
	6 月	1 日	産業展示棟（南館）開館記念式典を挙げる。開館記念特別展「日本の陶磁」同企画展「明治の陶器」開会式	
昭和 54 年	3 月	20 日	本館及び付属施設建設工事竣工する。面積 5,703.23 平方メートル。	
	3 月	31 日	農地林務部から土地 104,743.00 平方メートルが所管替えとなる。	
	4 月	1 日	愛知県陶磁資料館「かい」として発足する。	
	7 月	20 日	南館から愛知県青少年公園まで遊歩道竣工する。	
	10 月	13 日	本館開館記念式典を挙げる。本館開館記念特別展「東洋の陶磁」開会式	
昭和 56 年	3 月	27 日	復元古窯大窯、同 3 連房式登り窯並びに覆屋（面積 99 平方メートル）竣工する。	
	11 月	26 日	財団法人東海財団・（株）東海銀行から県民茶室「陶翠庵」の寄贈を受ける。面積 148.23 平方メートル。	
昭和 57 年	12 月	4 日	財団法人東海財団から「西館」の寄贈を受ける。面積 232.75 平方メートル。	
昭和 58 年	8 月	3 日	皇太子殿下、同妃殿下が当館を御視察になる。	
昭和 61 年	3 月	20 日	陶芸実習施設「陶芸館」竣工する。面積 469.74 平方メートル。	
	4 月	12 日	陶芸館開館記念式典を挙げる。	
昭和 62 年	6 月	11 日	入館者が 50 万人を突破する。	
	10 月	9 日	開館 10 周年記念特別展「日本陶磁絵巻」開会式	
平成 元年	5 月	31 日	愛知県土地開発基金から土地 60,297.15 平方メートル取得する。	
	7 月	1 日	愛知県陶磁資料館拡充整備検討会議設置	
平成 2 年	7 月	27 日	皇太子殿下が当館を御視察になる。	
	12 月	5 日	増築敷地造成工事（一次）に着工する。	

年	月	日	記	事
平成 3 年	3 月	27 日	愛知県陶磁資料館規則（昭和 53 年 5 月 26 日愛知県教育委員会規則第 5 号）を廃止する規則が公布される（平成 3 年 4 月 1 日施行）。愛知県陶磁資料館規則（平成 3 年 3 月 27 日愛知県規則第 22 号）が公布される（平成 3 年 4 月 1 日施行）。	
	4 月	1 日	愛知県陶磁資料館の所管事務が愛知県教育委員会（文化財課）から愛知県総務部文化振興局（企画課）に所管替えとなる。	
	8 月	8 日	増築敷地造成工事（二次）に着工する。	
	10 月	16 日	増築工事に着工する。	
平成 4 年	9 月	29 日	陶磁資料館古窯上屋（古窯館）建設工事に着工する。	
平成 5 年	3 月	18 日	古窯館（南山 8 号窯跡、南山 9 号窯跡）竣工する。面積 344 平方メートル。	
	11 月	30 日	本館、陶芸館増築工事竣工する。面積 12,449.91 平方メートル。	
平成 6 年	4 月	1 日	陶芸館増築部分及び古窯館が開館する。	
	7 月	5 日	陶磁資料館完成記念式典を挙げる。完成記念特別企画展「東洋陶磁名品展」内覧会	
	7 月	6 日	本館増築部分が開館する。	
	9 月	22 日	陶磁資料館完成記念特別企画展「国際現代陶芸展」開会式	
平成 10 年	4 月	4 日	開館 20 周年記念特別展「耀州窯展」開会式	
	10 月	3 日	開館 20 周年記念特別展「日本の三彩と緑釉」開会式	
	10 月	11 日	入館者が 150 万人を突破する。	
平成 12 年	4 月	1 日	愛知県陶磁資料館の所管事務が組織再編により愛知県総務部文化振興局（企画課）から愛知県県民生活部（文化学事課）に変更になる。	
平成 15 年	4 月	1 日	愛知県教育委員会から博物館法第 29 条に規定する博物館に相当する施設として指定を受ける。	
	6 月	10 日	皇太子殿下が愛知万博会場を御視察の際、当館を御利用になる。	
平成 16 年	1 月	18 日	入館者が 200 万人を突破する。	
平成 17 年	3 月	20 日	愛知万博記念特別企画展「桃山陶の華麗な世界」・「ピカソの陶芸—創造と伝統—」合同開会式	
平成 20 年	4 月	5 日	開館 30 周年記念特別企画展「窯変の美」開会式	
	10 月	25 日	開館 30 周年記念「陶磁フェスティバル」、特別企画展「海のシルクロードの出発点“福建”」開会式	
平成 22 年	7 月	3 日	本館 2 階常設展・南館常設展リニューアルオープン。「にぎわい創出プロジェクト事業」を実施する。	
	8 月	13 日	入館者が 250 万人を突破する。	
平成 24 年	12 月	21 日	愛知県陶磁資料館を愛知県陶磁美術館に改正する条例（平成 24 年 12 月 21 日愛知県条例第 76 号）の一部を改正する条例が公布される（平成 25 年 6 月 1 日施行）。	
平成 25 年	5 月	1 日	愛知高速交通「陶磁資料館南駅」へのアクセス遊歩道土地 3,105.12 平方メートルが産業労働部（産業科学技術課）から県民生活部（文化芸術課）に所管替えとなる。	
	5 月	31 日	愛知県陶磁資料館規則を愛知県陶磁美術館規則に改正する規則が公布される。（平成 25 年 5 月 31 日愛知県規則第 33 号、平成 25 年 6 月 1 日施行）。	
	6 月	1 日	開館 35 周年「愛知県陶磁美術館」新名称記念式典を挙げる。開館 35 周年・新名称記念特別企画展「—日本・中国・韓国—陶磁の名品、ここに集う」開会式	
平成 26 年	10 月	4 日	本館常設展示室（第 3 展示室～第 6 展示室）リニューアル開会式。陶磁の名品コーナーを新設する。	
平成 27 年	5 月	23 日	入館者が 300 万人を突破する。	
平成 28 年	2 月	27 日	南館常設展リニューアルオープン。	

平成 30 年 6 月 30 日 開館 40 周年記念特別企画展「知られざる古代の名陶 猿投窯」開会式  
平成 30 年 10 月 27 日 開館 40 周年記念特別企画展「瀬戸ーかく焼き繋ぎ 江戸時代の本業と新製ー」  
開会式

## 2 組織及び事務分掌

### (1) 組織

愛知県行政組織規則（抜粋）

(陶磁美術館)

第 19 条第 1 項 愛知県陶磁美術館に次の課を置く。

総 務 課	学 芸 課
-------	-------

2 前項の各課の分掌事務は、下記のとおりとする。

総務課

- (1) 文書及び公印の管守に関する事。
- (2) 職員の人事及び福利厚生に関する事。
- (3) 予算、会計及びその他庶務に関する事。
- (4) 建物、附属設備及び物品の保全管理に関する事。
- (5) 陶芸実習室及び展示室の利用に関する事。
- (6) その他学芸課の主管に属さない事。

学芸課

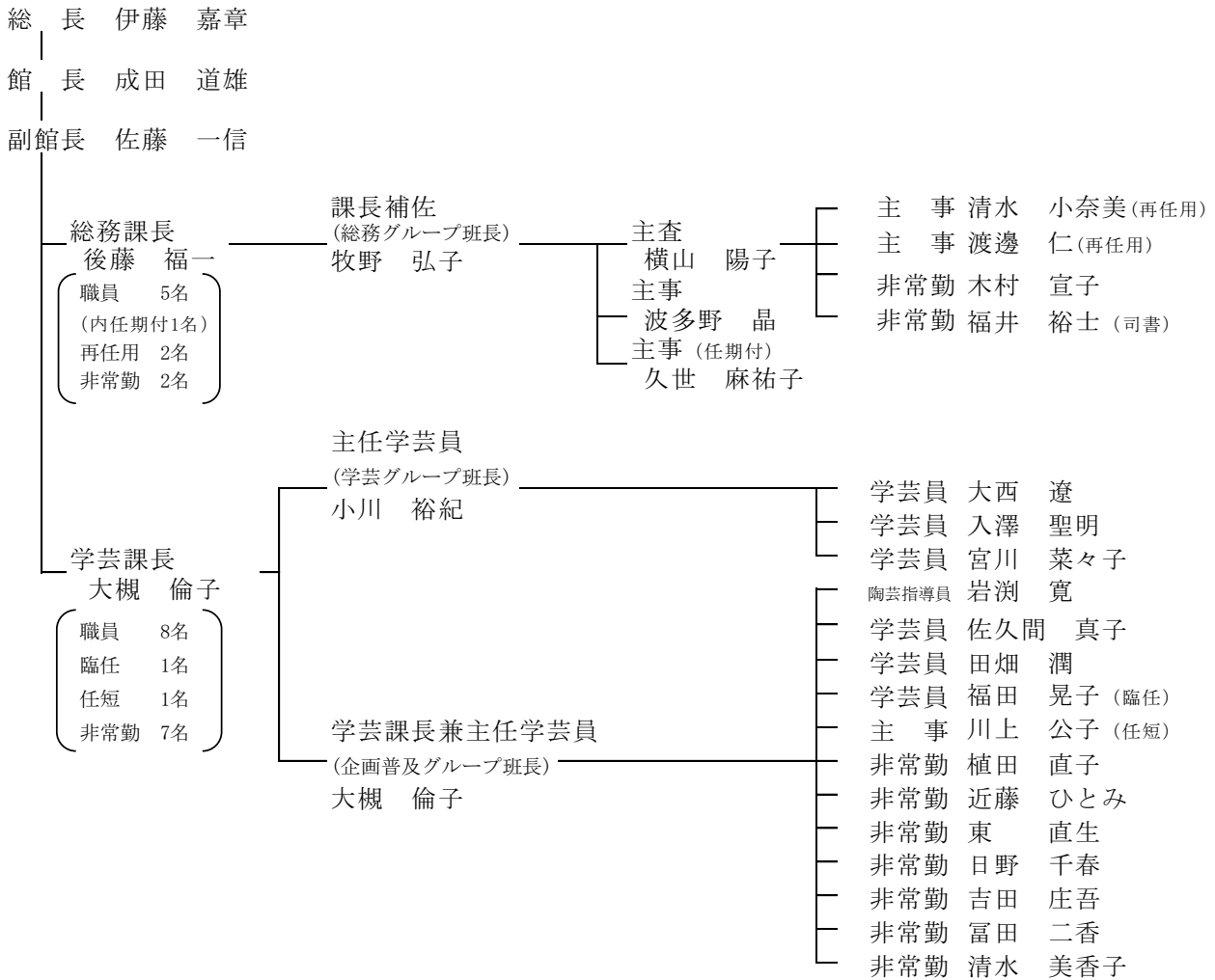
- (1) 陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存及び展示に関する事。
- (2) 陶磁器及び陶磁器に関する資料の調査研究に関する事。
- (3) 陶磁器に関する知識の向上及び普及に関する事。
- (4) 陶磁器に関する資料の刊行その他広報に関する事。

### (2) 職員等定数（令和 3 年 4 月 1 日現在）

職員定数 16 名 現員数 17 名（正規 14、任期付 1、任期付短時間 1、臨時的任用 1）

非常勤職員数 12 名 現員数 12 名（総長、再任用職員 2 名を含む）

(3) 組織図 (令和3年4月1日現在)



3 収支予算 (令和3年度)

(単位: 千円)

歳 入		歳 出	
陶磁美術館使用料	35,484	職員給与	121,253
観覧料収入	14,954	管理事務費 [ 光熱水費 業務委託 施設維持管理費 ]	224,997
行政財産使用料	2,260		
実習室等使用料	18,270		
諸収入	155,198	事業費 [ 展覧会開催費 普及啓発事業費 ]	106,264
宝くじ収入	152,000		
助成金等収入	3,198		
国庫支出金	13,252		
文化振興基金繰入金	11,135		
県債	5,000		
一般財源	232,445		
歳入合計	452,514	歳出合計	452,514

## 4 愛知県陶磁美術館運営会議

### (1) 会議の開催

日 時	令和2年8月26日(水) 午後2時～4時
出席委員	伊藤(保徳)委員、伊藤(嘉章)委員、加藤(清之)委員、加藤(まゆみ)委員、川上委員、倉地委員、柴垣委員、鈴木委員、辻委員、政木委員

### (2) 愛知県陶磁美術館運営会議開催要領

(目的)

第1条 愛知県陶磁美術館(以下「美術館」という。)の円滑かつ適正な運営に資するため、愛知県陶磁美術館運営会議(以下「運営会議」という。)を開催する。

(構成員)

第2条 運営会議の運営委員は、次の各号に掲げる者とし、愛知県陶磁美術館長(以下「館長」という。)が依頼する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 陶芸作家
- (3) 県関係者
- (4) その他館長が必要と認める者

2 運営委員の任期は2年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(協議事項)

第3条 運営会議は、次の事項について協議する。

- (1) 美術館の運営に関すること。
- (2) 常設展、企画展及び普及活動等に関すること。
- (3) その他必要と認める事項

(座長等)

第4条 運営会議に座長を置く。

2 座長は、愛知県陶磁美術館総長とする。

3 座長は、運営会議を主宰する。

4 座長に事故があるときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(顧問)

第5条 運営会議に顧問を置くことができる。

(運営会議)

第6条 運営会議は座長が招集する。

2 運営会議は、原則として公開するものとする。ただし、愛知県情報公開条例(平成12年愛知県条例第19号)第7条に規定する不開示情報が含まれる事項に関して調査検討等を行う場合又は運営会議を公開することにより会議の適正な運営に著しい支障が生ずると認められる場合であって、座長が運営会議の一部又は全部を公開しない旨を決定したときは、この限りでない。

3 会議録及び会議資料は、5年間保存する。

(事務)

第7条 運営会議の事務は、美術館において処理する。

(その他)

第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。

### (3) 愛知県陶磁美術館運営会議運営委員

(任期 令和3年4月1日～令和5年3月31日)

区 分	氏 名	備 考
学識経験者	柴垣 勇夫	元愛知淑徳大学教授
	倉地 久	愛知県立芸術大学美術学部長
	小林 牧	独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター副センター長
陶芸作家	太田 公典	瀬戸陶芸協会長
	柴田 正明	常滑陶芸作家協会長
	安藤 工	公益財団法人美濃陶芸協会長
県関係者	木藤 俊郎	愛知県議会県民環境委員会委員長
	伊藤 嘉章	愛知県陶磁美術館総長
その他館長が必要と認める者	伊藤 保徳	瀬戸市長
	高瀬 健一	一般社団法人愛知県観光協会 元国内誘客宣伝部長
	辻 孝二郎	INAX ライブミュージアム元館長
	中野 昭雄	愛知県陶磁器工業協同組合理事長
	赤田 由紀江	愛西市佐屋中学校校長(小中学校長会推薦)

※運営委員の氏名は令和3年6月1日現在

## 5 資料収集活動

### (1) 収集の方針

日本陶磁史の全体像を系統的に理解できるよう、全国の主要な窯業地の陶磁作品、海外の代表的な窯業地の陶磁作品、国内外の現代陶芸、陶磁器産業資料及び窯業関連資料の収集を図ることを基本方針とし、当面の収集目標を次のとおりとしている。

#### ア 日本陶磁の優品

日本陶磁史において、画期をなす時代の美術的、歴史的に優れた作品の収集に努める。特にこの地域で花開いた猿投窯、瀬戸・渥美・常滑窯を中心に、古代・中世の重要文化財級の優品並びに桃山時代のバラエティに富んだ茶陶の優品、近世の名工や近代・現代の人間国宝等の代表作の収集に努める。

#### イ 外国陶磁の優品

海外の代表的な窯業地の美術的、歴史的に優れた作品の収集に努める。

#### ウ 現代陶芸作品

国内外を代表する近代・現代の陶芸作品並びに当地域を中心とする中部地方の代表的陶芸作家の作品の収集に努める。

#### エ 陶磁史の基礎的資料

時代別・産地別に特徴を示す日本陶磁並びにこれに関連する外国陶磁資料の収集に努め、館蔵品の充実を図る。

### (2) 委員

#### ア 愛知県陶磁美術館資料委員会委員

(任期 令和3年4月1日～令和5年3月31日)

氏名	備考
荒川 正明	学習院大学教授
唐澤 昌宏	国立工芸館長
竹内 順一	東京藝術大学名誉教授
出川 哲朗	大阪市立東洋陶磁美術館長
長井 千春	愛知県立芸術大学教授

#### イ 愛知県陶磁美術館資料調査員

各地の情報を得るため、5人の陶磁関係者に委嘱している。

(令和3年度)

氏名	備考
天野 暢保	元安城市文化財保護委員
岩野 見司	公益財団法人荒木集成館長
大橋 康二	佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問
小玉 道明	元三重県史編さん専門委員
田中 照久	元福井県産業労働部地域産業技術振興課参事

### (3) 資料収集状況及び計画

(令和3年3月31日現在)

区 分		既収集資料点数			収 集 計 画
		総点数	購入点数	受贈点数	
日 本 陶 磁	縄 文 時 代	63	49	14	縄文時代6期の各期の特徴的な資料及び造形的に優れた名品。
	弥 生 時 代	25	20	5	弥生時代前期・中期・後期を代表する資料及びバレススタイルの土器群。
	古 墳 時 代	100	78	22	土師器・埴輪及び須恵器。
	奈 良 時 代	99	66	33	土師器・須恵器・奈良三彩及び瓦。
	平 安 時 代	86	36	50	猿投窯をはじめとする各地の須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器。
	鎌倉・室町時代	503	282	221	渥美・常滑・瀬戸・珠洲・越前・信楽・丹波・備前等の中世窯製品。
	桃 山 時 代	120	80	40	瀬戸黒・黄瀬戸・志野・織部・伊賀・備前・唐津等の茶陶類。
	江 戸 時 代	1,163	381	782	瀬戸・美濃・常滑・萬古や名古屋等の東海地方の諸窯。有田等の肥前陶磁、仁清・乾山等の京焼をはじめとする日本各地の製品。
	近 現 代 陶 磁	1,384	111	1,273	近代陶芸の基礎を築いた明治期の名工たちの作品。現代陶芸作家の作品及び著名公募展優秀作品。
	近 現 代 産 業 陶 磁	1,352	130	1,222	明治期の輸出陶磁器類及び窯業の近代化を物語る資料。ファインセラミックス及び現代陶磁器産業の製品。
	小 計	4,895	1,233	3,662	
外 国 陶 磁	中 国 陶 磁	878	60	818	日本の陶磁器の源流である中国・朝鮮半島の陶磁器及び世界各地の資料。
	韓国・東南アジア陶磁	287	53	234	
	中 近 東 陶 磁	196	19	177	
	ヨ ー ロ ッ パ 陶 磁	44	6	38	
	そ の 他 の 外 国 陶 磁	759	0	759	
	近 現 代 陶 磁	68	41	27	
	近 現 代 産 業 陶 磁	66	48	18	
	小 計	2,298	227	2,071	
関 連 資 料	907	12	895	ガラス・七宝などの窯業製品及び制作工程の資料や民俗資料。	
合 計	8,100	1,472	6,628		
内令和2年度収集資料点数	17	1	16	所蔵品管理 No. 7185-7201	

- ※注意・平安時代末期(12世紀)の資料は、所蔵品図録の分類に応じ、「鎌倉・室町時代」の項目で計数処理している。
- ・「鎌倉・室町時代」の受贈点数には、国より譲渡された埋蔵文化財50点を含む。
  - ・「近現代陶磁」および「近現代産業陶磁」の受領点数には、本県会計局(前出納事務局)から区分替えされた資料8点を含む。
  - ・近現代陶磁の受贈点数1,273は、貸出中における亡失(平成17年3月)のため、1点少なくなっている。

(4) 愛知用水関連資料及び南山8・9号窯資料

資料名称	内 訳	数 量	概 要
愛知用水関連資料 一括	完形資料	118件119点	昭和30年から37年にかけて、愛知用水建設に関連して、愛知県教育委員会が名古屋大学に委託して発掘調査を行った古窯跡の出土文化財
	重要陶片資料	33件190点	
	一般陶片資料	99件5,455箱	
南山8・9号窯資料 一括	重要陶片資料	134点	平成3年に、当館大駐車場の造成工事に関連して、当館が発掘調査を行った古窯跡の出土文化財
	一般陶片資料	257箱	

(5) 図書資料収集状況

(単位：冊)

年度	購入図書	寄 贈 図 書		合 計
		寄付受入	交換図書ほか	
令和2	0	0	862	862
合 計	1,849	11,721	49,531	63,101

## 6 利用者の状況

### (1) 年次別利用者一覧

(単位:人)

	開館日数 (日)	観覧者	陶芸館	合計	1日平均	累計
昭和53年度	212	53,935		53,935	254	53,935
54年度	292	47,163		47,163	162	101,098
55年度	307	48,867		48,867	159	149,965
56年度	307	49,686		49,686	162	199,651
57年度	306	48,586		48,586	159	248,237
58年度	307	48,108		48,108	157	296,345
59年度	306	49,984		49,984	163	346,329
60年度	305	52,443		52,443	172	398,772
61年度	306	71,882	14,700	86,582	283	485,354
62年度	308	50,287	15,197	65,484	213	550,838
63年度	305	48,046	15,328	63,374	208	614,212
平成元年度	306	53,288	18,781	72,069	236	686,281
2年度	306	44,990	20,745	65,735	215	752,016
3年度	306	40,390	21,465	61,855	202	813,871
4年度	307	39,886	24,643	64,529	210	878,400
5年度	306	27,439	24,413	51,852	169	930,252
6年度	298	77,701	38,983	116,684	392	1,046,936
7年度	307	76,613	51,957	128,570	419	1,175,506
8年度	305	68,831	57,184	126,015	413	1,301,521
9年度	306	58,213	57,725	115,938	379	1,417,459
10年度	307	73,903	53,033	126,936	413	1,544,395
11年度	307	56,076	52,861	108,937	355	1,653,332
12年度	306	43,121	50,644	93,765	306	1,747,097
13年度	306	49,268	44,427	93,695	306	1,840,792
14年度	305	39,898	46,701	86,599	284	1,927,391
15年度	307	43,849	44,030	87,879	286	2,015,270
16年度	308	38,824	36,971	75,795	246	2,091,065
17年度	331	53,294	29,426	82,720	250	2,173,785
18年度	306	41,257	35,534	76,791	251	2,250,576
19年度	308	39,744	35,917	75,661	246	2,326,237
20年度	307	34,782	35,558	70,340	229	2,396,577
21年度	306	37,516	34,464	71,980	235	2,468,557
22年度	306	50,746	35,946	86,692	283	2,555,249
23年度	307	64,859	38,527	103,386	337	2,658,635

24年度	307	60,394	42,281	102,675	334	2,761,310
25年度	305	67,114	41,889	109,003	357	2,870,313
26年度	306	68,702	43,679	112,381	367	2,982,694
27年度	310	50,695	41,350	92,045	297	3,074,739
28年度	306	44,811	34,348	79,159	259	3,153,898
29年度	308	37,173	31,290	68,463	222	3,222,361
30年度	305	46,544	26,900	73,444	241	3,295,805
31年度	307	50,691	25,948	76,639	250	3,372,444
令和2年度	275	33,615	15,853	49,468	180	3,421,912
累計	13,054	2,183,214	1,238,698	3,421,912		
令和2年 4月	9	62	187	249	28	249
5月	12	1,031	0	1,031	86	1,280
6月	25	2,399	868	3,267	131	4,547
7月	27	1,175	1,509	2,684	99	7,231
8月	26	3,113	1,729	4,842	186	12,073
9月	26	4,628	1,708	6,336	244	18,409
10月	27	3,506	1,937	5,443	202	23,852
11月	25	5,117	2,069	7,186	287	31,038
12月	24	3,270	1,561	4,831	201	35,869
令和 3年 1月	24	2,231	1,268	3,499	146	39,368
2月	24	3,604	1,252	4,856	202	44,224
3月	26	3,479	1,765	5,244	202	49,468
<b>令和2年度 年計</b>	<b>275</b>	<b>33,615</b>	<b>15,853</b>	<b>49,468</b>		

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、観覧施設は4月11日（土）から5月17日（日）まで、陶芸館は4月11日（土）から5月31日（日）まで休館した。

(2) 月別利用者数

(2年度 単位：人)

区 分	令和2年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年1月	2月	3月	合 計	
特別 企 画 展	個人 高・大学生 一 般					15	8	6	9	6			44	
	個人 一 般					310	391	207	310	146			1,364	
	障害者 高・大学生 一 般					49	66	29	54	16			214	
	障害者 一 般												0	
	団体 高・大学生 一 般								94				94	
	団体 一 般						26						26	
	リニモ 高・大学生 一 般					4	8	6	9	6			33	
	リニモ 一 般					87	172	82	181	130				652
	割引者 高・大学生 一 般					16	13	3	16	13				61
	割引者 一 般					520	673	276	477	290				2,236
計	0	0	0	0	1,001	1,357	609	1,150	607	0	0	0	4,724	
有 料 観 覧 者	個人 高・大学生 一 般		3	8							3	9	11	34
	個人 一 般		99	247							149	205	149	849
	障害者 高・大学生 一 般			1										1
	障害者 一 般		13	27							26	28	31	125
	団体 高・大学生 一 般			22										22
	団体 一 般												20	20
	リニモ 高・大学生 一 般		2									15	12	29
	リニモ 一 般		32	66							58	85	110	351
	割引者 高・大学生 一 般		3	7							4	5	8	27
	割引者 一 般		116	274							257	313	260	1,220
計	0	268	652	0	0	0	0	0	0	497	660	601	2,678	
常 設 展	個人 高・大学生 一 般	2		3	28	13	5	1		4	2	2	8	68
	個人 一 般	34	10	101	899	343	94	116	79	114	55	35	119	1,999
	団体 高・大学生 一 般													0
団体 一 般								21					21	
計	36	10	104	927	356	99	117	100	118	57	37	127	2,088	
抜 き 取 り	個人 一 般													0
	団体 一 般								20					20
計	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	20	
パートナーシップ	1	2	87	32	23	15	37	38	33	21	14	10	313	
合 計 (有料観覧)	37	280	843	959	1,380	1,471	763	1,308	758	575	711	738	9,823	
無 料 観 覧 者	学 校 行 事													
	小 学 生						120	480		7	154		115	876
	中 学 生									33			264	297
	高 校 生						99	22	14	213	18			366
	計	0	0	0	0	0	219	502	47	220	172	0	379	1,539
	そ の 他													
	招 待 券		322	641	43	555	1,314	494	734	655	406	589	834	6,587
	中学生以下 一 般	1	31	30	87	110	71	41	87	48	54	79	90	729
	障害者常設展 企画展観覧者	6	5	7	65	19	8	14	15	12	8	2	7	168
	計	7	751	1,556	195	1,529	2,798	1,301	1,744	1,285	1,189	1,389	2,099	15,843
合 計 (無料観覧)	7	751	1,556	195	1,529	3,017	1,803	1,791	1,505	1,361	1,389	2,478	17,382	
観覧イベント				21	204	140	940	1,919	873	179	1,350	164	5,790	
茶室利用者	18							99	134	116	154	99	620	
観覧者等合計	62	1,031	2,399	1,175	3,113	4,628	3,506	5,117	3,270	2,231	3,604	3,479	33,615	
陶 芸 館	作 陶													
	中学生以下 一 般	9		121	447	526	521	590	364	646	377	298	660	4,559
	一 般	178		733	1,005	1,126	1,134	1,141	1,354	889	782	929	1,054	10,325
	計	187	0	854	1,452	1,652	1,655	1,731	1,718	1,535	1,159	1,227	1,714	14,884
絵付け														
中学生以下 一 般			5	26	47	25	81	27	8	6	11	22	258	
一 般			9	31	30	28	30	31	18	8	14	29	228	
計	0	0	14	57	77	53	111	58	26	14	25	51	486	
陶芸館イベント							95	293		95			483	
陶 芸 館 合 計	187	0	868	1,509	1,729	1,708	1,937	2,069	1,561	1,268	1,252	1,765	15,853	
総 計	249	1,031	3,267	2,684	4,842	6,336	5,443	7,186	4,831	3,499	4,856	5,244	49,468	

## 7 展覧会別観覧者状況一覧

### 企画展・特別展

年度	展覧会名	会期	開催日数	観覧者数	1日平均
平成6	東洋陶磁名品展	平成6.7.6～平成8.8.28	47日	26,823人	571人
	国際現代陶芸展 ―今日のうつわと造形―	平成6.9.22～平成8.11.27	58	12,176	210
	ペルシア陶器展	平成6.12.18～平成7.2.19	48	6,640	138
7	茶の湯の美 ―五島美術館コレクション―	平成7.4.15～平成7.5.28	38	11,579	305
	―茶どころに華ひらく陶芸文化― 名古屋のやきもの	平成7.6.6～平成7.7.30	48	8,935	186
	瀬戸の陶芸 ―1300年の歴史と今―	平成7.8.5～平成7.9.28	47	22,001	468
	―古代の造形美― 装飾須恵器展	平成7.10.7～平成7.11.26	44	9,114	207
	思索する色とかたち作陶50年 タカエズ・トシコ展	平成7.12.9～平成8.2.4	43	5,185	121
	経塚出土陶磁展 ―中部地方に埋納されたやきもの―	平成8.2.10～平成8.3.27	40	5,465	137
8	ドナウの夢と追憶 ハンガリーの建築・陶芸と応用美術1896-1916	平成8.4.2～平成8.5.6	31	7,109	229
	桃山の教寄 ―茶の湯の名碗―	平成8.6.1～平成8.7.14	38	18,899	497
	常滑現代陶芸展	平成8.7.20～平成8.9.5	41	7,261	177
	現代陶芸の若き旗手たち	平成8.9.14～平成8.11.24	62	14,446	233
	スワトウ・ウェアの世界 ―呉州赤絵・呉州染付・餅花手―	平成8.11.30～平成9.2.2	49	6,137	125
	経塚出土陶磁展 ―関東・北陸地方に埋納されたやきもの―	平成9.2.8～平成9.3.27	41	3,988	97
9	松岡美術館名品展 ―東洋陶磁の精華―	平成9.4.12～平成9.5.25	38	10,454	275
	森正洋陶磁デザイン展 ―今を生きるくらしの器―	平成9.6.3～平成9.7.27	48	7,013	146
	長野のやきもの ―山あい息づく土と炎の文化―	平成9.8.5～平成9.9.23	43	7,467	174
	遺跡にみる戦国・桃山の茶道具 ―茶の湯の名陶―	平成9.10.4～平成9.11.24	45	10,319	229
	美濃の現代陶芸 ―伝統と創造―	平成9.12.6～平成10.2.1	43	7,016	163
	経塚出土陶磁展 ―東北・越後地方に埋納されたやきもの―	平成10.2.7～平成10.3.25	40	4,052	101
10	―中国中原に華ひらいた名窯― 耀州窯展	平成10.4.4～平成10.5.10	32	8,906	278
	大阪市立東洋陶磁美術館所蔵 安宅コレクションの至宝	平成10.5.16～平成10.6.21	32	25,347	792
	磁器の技と美 ―有田そして瀬戸へ―	平成10.8.8～平成10.9.27	44	17,181	390
	日本の三彩と緑釉 ―天平に咲いた華―	平成10.10.3～平成10.11.23	45	10,785	240
	経塚出土陶磁展 ―中国・四国地方に埋納されたやきもの―	平成11.2.9～平成11.3.28	42	3,621	86
11	―なぞのタイムカプセル― 封印された南宋陶磁展	平成11.4.3～平成11.5.16	38	15,011	395
	犬山焼 ―浅井コレクション展―	平成11.5.22～平成11.7.11	44	7,452	169
	茶の湯とやきもの ―尾張・三河の茶人たちをめぐって―	平成11.9.11～平成11.10.24	38	10,751	283
12	万国博覧会と近代陶芸の黎明	平成12.4.8～平成12.5.21	38	7,800	205
	加藤舜陶古陶磁コレクション展 ―その作品とともに―	平成12.5.27～平成12.7.9	38	6,444	170
	煎茶とやきもの ―江戸・明治の中国趣味―	平成12.9.23～平成12.11.26	56	10,421	186
13	ドイツ陶芸の100年 ―アール・ヌーヴォーから現代作家まで―	平成13.4.1～平成13.5.20	43	11,082	258
	尾張の茶道具 ―瀬戸・常滑の名工たちをめぐって―	平成13.9.8～平成13.10.28	44	8,135	185
	ルサソの精華 マジョリカ名陶展 ―イタリア・ファエンツァ国際陶芸博物館所蔵―	平成13.11.3～平成13.12.24	45	10,103	225
14	アメリカ現代陶芸の系譜 1950-1990 ―自由の国のオブジェと器―	平成14.4.13～平成14.6.30	68	9,396	138
	スイスの陶芸	平成14.9.21～平成14.11.24	56	7,920	141
	ノベルティ・デザイン ―光和陶器・デザインの軌跡―	平成15.2.1～平成15.3.30	50	6,810	136
15	土と炎の世紀 ―ノリタケチャイナと製陶王国の100年史―	平成15.4.5～平成15.6.8	56	9,019	161
	桃山陶に魅せられた七人の陶芸家 ―陶片に学んだ技と美―	平成15.6.14～平成15.8.24	62	12,175	196
	歴史の風景 ―遺跡からのメッセージ―	平成15.8.30～平成15.11.16	68	7,609	112
16	近代窯業の父 ゴットフリート・ワグネルと万国博覧会展	平成16.4.3～平成16.6.27	74	6,884	93
	土と炎の芸術 ―世界の土器―	平成16.7.3～平成16.11.7	110	8,909	81
	洛陽の夢 ―唐三彩展	平成16.11.16～平成16.12.23	33	9,400	285
	桃山陶の華麗な世界	平成17.3.21～平成17.3.31	11	2,432	221
	ピカソの陶芸 ―創造と伝統―	平成17.3.21～平成17.3.31	11	1,560	142
17	桃山陶の華麗な世界	平成17.4.1～平成17.9.25	178	35,814	201
	ピカソの陶芸 ―創造と伝統―	平成17.4.1～平成17.9.25	178	21,169	119
	土から生み出すかたち 造形の軌跡 加藤清之展	平成17.10.29～平成17.12.25	50	5,030	101
	陶器が語る来世の理想郷 中国古代の暮らしと夢 ―建築・人・動物―	平成18.2.4～平成18.3.26	44	6,761	154
18	木村定三コレクションの茶陶	平成18.4.8～平成18.6.18	62	8,870	143
	発掘されたムラと宝 ―いにしへの暮らしと技を探る―	平成18.6.24～平成18.9.24	80	7,372	92
	日本のわざと美 ―重要無形文化財とそれを支える人々―	平成18.10.7～平成18.11.5	26	8,410	323
	陶磁のこま犬百面相	平成18.11.11～平成19.1.21	55	6,084	111
	ペルシアのやきもの ―8000年の美と伝統―	平成19.1.27～平成19.3.31	55	8,009	146

年度	展 覧 会 名	会 期	開催日数	観覧者数	1日平均
19	食卓の華 ―世界に愛された日本の洋食器100年―	平成19.4.7～平成19.6.10	56日	8,211人	147人
	うつわ百花繚乱 ―尾張の食器文化―	平成19.4.7～平成19.6.10	92	11,981	130
	煎茶陶芸の美と伝統 ―人間国宝 三代山田常山への道―	平成19.10.6～平成19.11.25	44	6,818	155
	幻の壺 ―本多静雄コレクションの古陶磁―	平成19.12.1～平成20.2.11	56	5,600	100
	新進陶芸家による「東海現代陶芸の今」	平成20.2.16～平成20.3.30	38	4,503	119
20	窯変の美 ―鎌倉・室町の名陶―	平成20.4.5～平成20.6.1	50	7,757	155
	李吉秀コレクション ―韓国、日本、中国、東南アジアのやきもの―	平成20.4.12～平成20.6.1	44	6,363	145
	中国古代の建築と暮らし ―茂木計一郎コレクション―	平成20.6.7～平成20.8.17	62	6,032	97
	世界の現代陶芸 ―愛知県陶磁資料館コレクション―	平成20.8.23～平成20.10.19	50	4,906	98
	海のシルクロードの出発点”福建” ―沈没船、貿易都市、陶磁器、茶文化―	平成20.10.25～平成21.1.12	62	7,552	122
21	やきもの収集の旅 ―愛知県陶磁資料館コレクションの軌跡―	平成21.1.17～平成21.3.29	62	6,072	98
	生誕90年 河本五郎展 5人の帝室技芸員陶芸家の作品展	平成21.4.4～平成21.5.31	50	6,308	126
	美在掌中 中国の小さなやきもの	平成21.6.6～平成21.7.26	44	5,299	120
	2009 アジア現代陶芸 ―アジア(日・中・韓・台湾)の現代陶芸―	平成21.8.1～平成21.9.27	50	3,347	67
	志野・黄瀬戸・織部のデザイン/桃山時代のやきものに関する展示 ジャパニーズ・デザインの挑戦 産総研に残る試作とコレクション	平成21.10.3～平成21.11.29 平成21.12.5～平成22.3.28	50 92	8,081 7,079	162 77
22	名古屋の楽焼 八事窯 中村道年へのあゆみ	平成22.4.3～平成22.6.27	74	8,909	120
	1000年前のハローワーク ―見て触れて、親子で楽しい愛知の考古学―	平成22.7.3～平成22.9.26	74	7,131	96
	帝室技芸員のわざと美 明治の人間国宝 ―清風興平・宮川香山から板谷波山まで―	平成22.10.2～平成22.11.28	50	8,047	161
	陶芸家・辻清明の眼 ―作品とコレクション―	平成22.12.4～平成23.1.30	43	4,506	105
	阿蘭陀焼:あこがれのプリントウェア ―海を渡ったヨーロッパ陶磁―	平成23.2.5～平成23.3.27	44	4,930	112
23	古陶の譜 中世のやきもの ―六古窯とその周辺―	平成23.4.2～平成23.5.22	44	5,315	121
	アンデス・メソアメリカ文明展 ―古代の暮らしと聖なる動物たち―	平成23.5.28～平成23.7.31	56	9,218	165
	東海現代陶芸 ―思考する新世代―	平成23.8.6～平成23.10.2	50	5,180	104
	開窯300年 マイセン 西洋磁器の誕生	平成23.10.8～平成23.12.11	56	13,669	244
	日本人の愛した中国陶磁 龍泉窯青磁展	平成24.1.21～平成24.3.31	61	9,853	162
24	彫刻を聞き、土を語らせる 西村陽平展/西村陽平が出会った子どもたち展	平成24.4.7～平成24.5.27	44	4,324	98
	華麗なる美の競演 初期伊万里・柿右衛門・鍋島	平成24.6.2～平成24.7.22	44	9,825	223
	戦国のあいち ―信長の見た城館・陶磁・世界―	平成24.7.28～平成24.9.30	56	6,846	122
	アール・デコ 光のエレガンス	平成24.10.6～平成24.12.24	69	10,615	154
	陶家の蒐集と制作 I 清水六兵衛家一京の華やぎ―	平成25.1.12～平成25.3.24	62	9,366	151
25	茶人のあそび心 形物香合番付の世界	平成25.4.20～平成25.5.26	32	5,757	180
	―日本・中国・韓国― 陶磁の名品、ここに集う	平成25.6.1～平成25.7.28	50	11,122	222
	2013アジア現代陶芸 ―新世代の交感展	平成25.8.3～平成25.9.29	50	3,813	76
	泥象 鈴木治の世界	平成25.10.12～平成25.12.23	63	5,956	95
	モダニズムと民藝 北欧のやきもの:1950's-1970's	平成26.1.11～平成26.3.23	62	11,734	189
26	桃山・江戸の華やぎ 古唐津・古武雄	平成26.4.12～平成26.6.15	56	7,792	139
	魅惑の陶製人形～ノベルティ、人物備、はにわ、土人形、フィギュリン～	平成26.6.21～平成26.8.17	50	9,702	194
	高麗・李朝の工芸 ―陶磁器、漆器、金属器―	平成26.8.23～平成26.10.26	56	8,619	154
	川喜田半泥子物語 ―その芸術的生涯―	平成26.11.1～平成26.12.26	48	8,346	174
	愛知ノート ―土・陶・風土・記憶―	平成27.1.10～平成27.3.15	56	5,072	91
27	耀きの静と動 ボヘミアングラス	平成27.4.11～平成27.5.24	38	8,289	218
	鯉江良二展 ―土に還る それ以前・それ以後―	平成27.6.6～平成27.8.2	50	4,887	98
	ギリシア陶器:「古典」の誕生 ―アッティカ、ローマからセヴル、ピカソまで―	平成27.8.8～平成27.10.12	59	6,704	114
	タイル 近代都市の表面	平成27.10.17～平成27.12.23	58	4,633	80
	煎茶 ―山本梅逸と尾張・三河の文人文化―	平成28.1.16～平成28.3.27	62	6,473	104
28	沖繩の工芸 ―琉球ガラス・陶磁器・染織・琉球漆器―	平成28.4.16～平成28.6.19	56	6,371	114
	弥生への旅 ―朝日遺跡 2000年前のキャラヴァンサライ―	平成28.7.2～平成28.8.28	50	5,084	102
	人が大地と出会うとき	平成28.9.10～平成28.10.23	38	4,224	111
	くらしをうつす ―郷土の土人形展―	平成28.11.3～平成28.12.4	28	2,101	75
	ヘレンド ―皇妃エリザベートが愛したハンガリーの名窯―	平成29.1.7～平成29.3.26	68	7,914	116
29	瓦万華鏡 ～社会、地域、心をつなぐ～	平成29.4.15～平成29.6.25	62	4,159	67
	今右衛門の色鍋島	平成29.7.1～平成29.8.27	50	8,535	171
	2017アジア現代陶芸展	平成29.8.31～平成29.10.22	46	2,799	61
	染付:青繪(あおえ)の世界	平成29.11.3～平成30.1.14	56	4,686	84

年度	展 覧 会 名	会 期	開催日数	観覧者数	1日平均
30	瀬戸陶芸の黎明	平成30.4.14～平成30.6.17	56日	5,124人	92人
	知られざる古代の名陶 猿投窯	平成30.6.30～平成30.8.26	50	5,370	107
	THE YUNOMI 湯のみ茶碗	平成30.9.1～平成30.10.21	44	3,962	90
	瀬戸ーかく焼き繋ぎ	平成30.10.27～平成30.12.16	44	3,819	87
	愛知県陶磁美術館の受贈外国陶磁コレクション選	平成31.1.12～平成31.3.24	62	4,026	65
31/ 令和 元	黄金の地を南の海から ー東南アジア陶磁コレクションー	平成31.4.13～令和元.6.16	57	4,755	83
	インダス文明への道 ー栗田功コレクションを中心にー	令和元.6.29～令和元.8.18	44	5,840	133
	川勝コレクション鐘溪窯 陶工・河井寛次郎展	令和元.8.24～令和元.10.20	50	6,329	127
	愛知やきものセレクション ー県指定文化財の陶磁器ー	令和元.11.2～令和元.12.22	44	3,593	82
2	異才 辻晋堂の陶彫 ー「陶芸であらざる」の造形からー	令和2.5.19～令和2.6.21	30	2,028	68
	The 備前 ー土と炎から生まれる造形美ー	令和2.8.8～令和2.9.27	44	4,634	105
	YAYOI・モダンデザイン ーニッポンの美、ここに始まるー	令和2.10.10～令和2.12.13	56	4,905	88
	日本陶磁の源・陶邑窯 ー猿投窯の前に立ちのぼった巨大な壁ー	令和3.1.9～令和3.3.21	62	4,381	71

## 8 展覧会別収支決算状況

(令和2年度)

展 覧 会 名	会 期 (日数)	収 支 額		
		収 入 額	支 出 額	収支比率
異才 辻晋堂の陶彫 ー「陶芸であらざる」の造形からー	5月19日(火) ～6月21日(日) (30日)	517,550円 (観覧料 517,550円)	7,980,250円	6.5%
The 備前 ー土と炎から生まれる造形美ー	8月8日(土) ～9月27日(日) (44日)	1,909,370円 (観覧料 1,909,370円)	10,613,180円	18.0%
YAYOI・モダンデザイン ーニッポンの美、ここに始まるー	10月10日(土) ～12月13日(日) (56日)	2,656,310円 (観覧料 1,928,310円 図録収入 728,000円)	9,045,179円	21.4%
日本陶磁の源・陶邑窯 ー猿投窯の前に立ちのぼった巨大な壁ー	1月9日(土) ～3月21日(日) (62日)	925,040円 (観覧料 925,040円)	2,246,700円	41.2%

注：支出額は、チケットもぎり、展示室看視員の経費は含まない。

## 9 陶芸館利用

### (1) 沿革

昭和61年4月13日に、従来の「みる」から「つくる」へ一歩進めて、さらに生涯学習と陶芸文化の普及活動を展開するための陶芸実習施設「陶芸館」を開館し、平成6年4月1日に増築オープンした。

施設の概要は、鉄筋造地上1階地下2階3,541.41㎡で、本館や南館などとバランスのとれた風格のある建物となっており、陶芸実習室・施釉室・焼成室・ロッカー室及び猿投山を一望できるロビーなどの各室と、電動ロクロ20台・手ロクロ180台・土練機2台・ビデオ装置1台などを備えている。

### (2) 陶芸教室

昭和61年度から平成25年度までは作陶技術を段階的に修得できるよう初級、中級、上級の3コースに分けた陶芸講座を開催したところ4,947人が受講した。

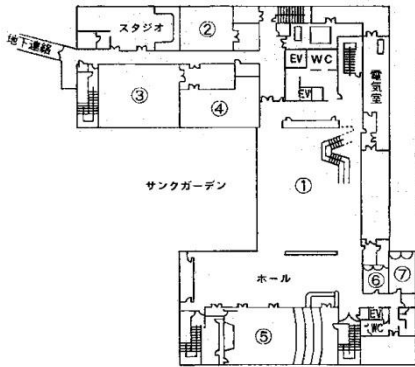
平成26年度からはやきもの作りの技術を様々な角度から習得できるように専門性の高い教室として、5～7コースに分けて開催し、下表のとおり728人が受講した。

年 度	初 級	中 級		上 級 (ろくろ)	合 計	累 計
		(Aコース)	(Bコース)			
昭和61	60人	20人		—	80人	80人
62	80人	40人		10人	130人	210人
63	80人	40人		20人	140人	350人
平成元	80人	40人		20人	140人	490人
2	80人	40人		20人	140人	630人
3	80人	40人		20人	140人	770人
4	80人	40人		20人	140人	910人
5	80人	40人		20人	140人	1,050人
6	57人	42人		34人	133人	1,183人
7	79人	65人		38人	182人	1,365人
8	75人	61人		40人	176人	1,541人
9	71人	61人		39人	171人	1,712人
10	93人	66人		38人	197人	1,909人
11	95人	59人	57人	40人	251人	2,160人
12	70人	60人	60人	40人	230人	2,390人
13	90人	55人	59人	40人	244人	2,634人
14	92人	60人	60人	40人	252人	2,886人
15	79人	53人	48人	40人	220人	3,106人
16	79人	53人	52人	39人	223人	3,329人
17	93人	33人	38人	39人	203人	3,532人
18	98人	42人	29人	36人	205人	3,737人
19	65人	30人	54人	21人	170人	3,907人
20	56人	28人	34人	32人	150人	4,057人
21	95人	52人	22人	29人	198人	4,255人
22	87人	45人	48人	40人	220人	4,475人
23	67人	58人	42人	37人	204人	4,679人
24	47人	31人	34人	34人	146人	4,825人
25	41人	24人	31人	26人	122人	4,947人
合 計	2,149人	1,946人		852人	4,947人	—

年 度	一般コース	特別造形講座コース	累 計
平成26	90人 (6コース)	10人	100人
27	73人 (5コース)	14人	87人
28	87人 (4コース)	13人	100人
29	81人 (4コース)	34人	115人
30	79人 (5コース)	11人	90人
31	91人 (5コース)	17人	108人
令和2	128人 (6コース)	休講	128人
合 計	629人	99人	728人

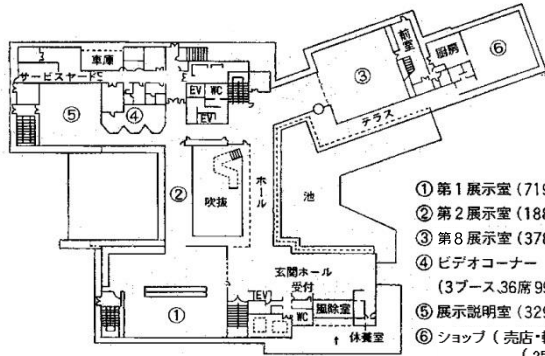
# 10 施設の規模と配置

本館 MAIN HALL B1F



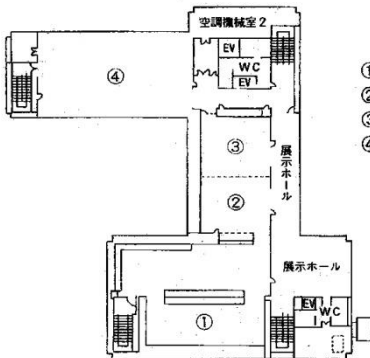
- ① 第7展示室 (568m<sup>2</sup>)
- ② 特別収蔵庫 (99m<sup>2</sup>)
- ③ 第1収蔵庫 (224m<sup>2</sup>)
- ④ 第2収蔵庫 (148m<sup>2</sup>)
- ⑤ 講堂 (218席 338m<sup>2</sup>)
- ⑥ 第1研修室 (36m<sup>2</sup>)
- ⑦ 第2研修室 (46m<sup>2</sup>)

本館 MAIN HALL 1F



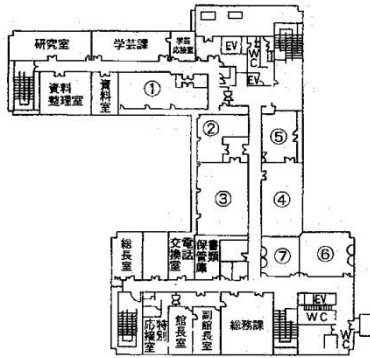
- ① 第1展示室 (719m<sup>2</sup>)
- ② 第2展示室 (188m<sup>2</sup>)
- ③ 第8展示室 (378m<sup>2</sup>)
- ④ ビデオコーナー (3ブース 36席 99m<sup>2</sup>)
- ⑤ 展示説明室 (329m<sup>2</sup>)
- ⑥ ショップ (売店・軽食) (250m<sup>2</sup>)

本館 MAIN HALL 2F



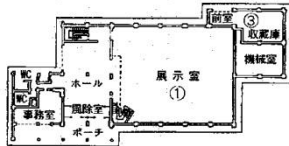
- ① 第3展示室 (766m<sup>2</sup>)
- ② 第4展示室 (238m<sup>2</sup>)
- ③ 第5展示室 (242m<sup>2</sup>)
- ④ 第6展示室 (576m<sup>2</sup>)

本館 MAIN HALL 3F



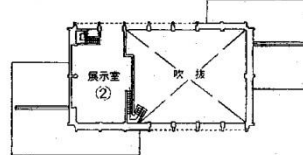
- ① 第3収蔵庫 (151m<sup>2</sup>)
- ② 第4収蔵庫 (106m<sup>2</sup>)
- ③ 第5収蔵庫 (193m<sup>2</sup>)
- ④ 図書室 (141m<sup>2</sup>)
- ⑤ 書庫 (96m<sup>2</sup>)
- ⑥ 会議室 (118m<sup>2</sup>)
- ⑦ 視聴覚室 (76m<sup>2</sup>)

南館 SOUTH HALL 1F

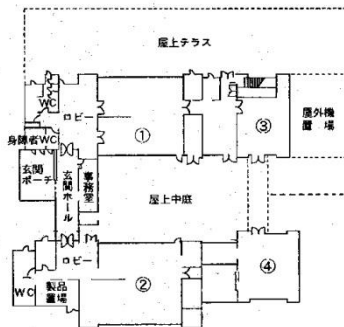


- ① ② 展示室 (976m<sup>2</sup>)
- ③ 収蔵庫 (97m<sup>2</sup>)

南館 SOUTH HALL 2F

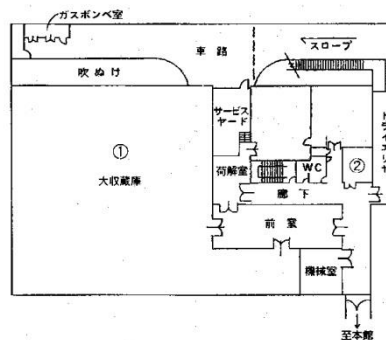


陶芸館 CERAMICS CRAFT STUDIO 1F



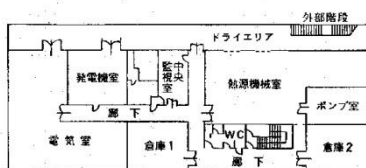
- ① 第1実習室 (176m<sup>2</sup>)
- ② 第2実習室 (205m<sup>2</sup>)
- ③ 第1焼成室 (94m<sup>2</sup>)
- ④ 第2焼成室 (106m<sup>2</sup>)

陶芸館 CERAMICS CRAFT STUDIO B1F

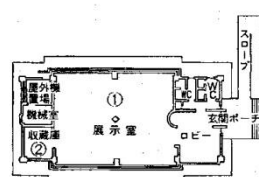


- ① 大収蔵庫 (913m<sup>2</sup>)
- ② 焼成室 (22m<sup>2</sup>)

陶芸館 CERAMICS CRAFT STUDIO B2F

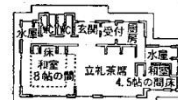


西館 WEST HALL 1F

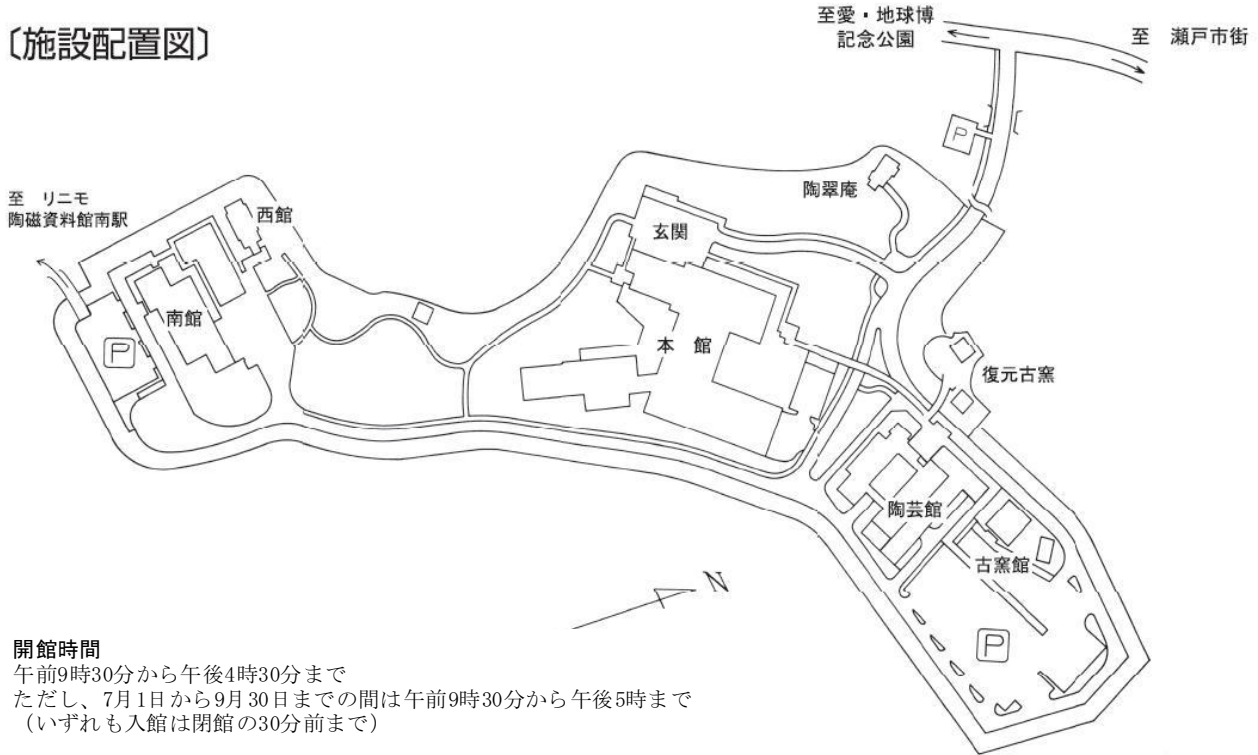


- ① 展示室 (153m<sup>2</sup>)
- ② 収蔵庫 (15m<sup>2</sup>)

陶翠庵 TOSUI-AN



## 〔施設配置図〕



### 開館時間

午前9時30分から午後4時30分まで  
 ただし、7月1日から9月30日までの間は午前9時30分から午後5時まで  
 (いずれも入館は閉館の30分前まで)

### 交通機関

- リニモ (東部丘陵線) 「陶磁資料館南」 駅下車、徒歩600m  
 自家用車・東名高速道路「名古屋 I C」・名二環「本郷 I C」から  
 瀬戸、長久手、足助方面に約10km  
 ・東名高速道路「日進 J C T」経由、  
 名古屋瀬戸道路「長久手 I C」から足助・瀬戸方面に約5km  
 ・東海環状自動車道「せと赤津 I C」から約7km  
 タクシー 地下鉄東山線・リニモ「藤が丘」駅から約20分  
 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸」駅から約15分  
 名鉄バス 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸」駅から「愛・地球博記念公園」行き  
 「陶磁美術館」下車 (土・日・休日のみ運行)

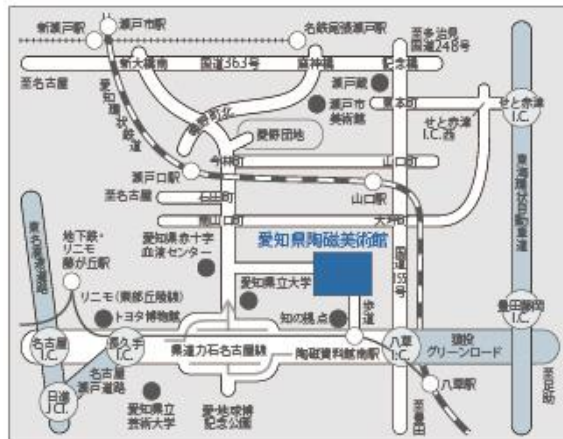
### 休館日

月曜日 (月曜日が休日のときはその直後の平日)  
 12月28日～1月4日

### 観覧料

一般 (個人)	一般	400円
	高・大学生	300円
	中学生以下	無料
団体20人以上	一般	320円
	高・大学生	240円

企画展はその都度定める。



位置図